

松原市埋蔵文化財発掘調査報告 第1輯

三宅遺跡

1980.3

松原市教育委員会

松原市埋蔵文化財発掘調査報告 第1輯

三宅遺跡

付載 樋野ヶ池窯跡出土資料

1980.3

松原市教育委員会

序

本報告書は、三宅小学校増築工事に伴う緊急発掘調査の報告書です。

三宅小学校は、生徒数の増加によって、既設の教室だけでは児童を収容しきれなくなり、緊急に校舎を増築することが必要となりました。そこで教育委員会では、昭和54年度事業で校舎増築工事を行うことを決定したのです。

そして工事に先立って行なわれた試掘調査の結果、中世の遺構、遺物の存在が明らかとなり、今回の発掘調査が実施されることになりました。

この発掘調査によって得られた貴重な成果が報告書としてまとめられ、今後の松原市における文化財保護行政の推進と、市民の皆様への文化財の普及、啓蒙の一助となれば幸いかと存じます。

終わりに、時間的な制約のなかで発掘調査及び、報告書刊行が成し遂げられたことは、学生諸氏の純粋な学究精神の賜物であることを申し上げ、御指導、御協力をいただいた関係各位に対し深く感謝いたします。

昭和55年3月

松原市教育委員会

教育長 北野 勝

例　言

1. 本書は、松原市教育委員会が三宅小学校増築工事に伴って実施した、三宅遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 発掘調査は、昭和54年9月1日から10月5日まで行なわれ、報告書作製は昭和55年3月1日に完了した。
3. 発掘調査は、松原市教育委員会社会教育課が主管し、技師・足立俊彦が担当した。
4. 本書の執筆は、足立俊彦が行ない、樋野ヶ池窯出土遺物観察表は、足立寛が作製した。図版、挿図の作製は全員で行なった。
5. 上器の番号は、本文、写真、挿図ともすべて統一した。
6. 造構断面の基準線は、すべてO.P.18.80mで統一した。
7. 土層及び樋野ヶ池窯出土遺物の色調は、「新版、標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修）を用いた。
8. 調査参加者
十河稔郁（現、堺市教育委員会）、川口宏海、植田一正（以上、佛教大学大学院）、古園哲朗、渡邊みどり、奥野朋子、山本　薰。
西岡君雄（佛教大学）、長谷川　仁（関西外国语大学）、島川一郎（大阪市立大学）、藤田順子、藤本さつき、森　薰（以上、堺女子短期大学）、田中佐知子、藤田幸枝、辻本記公子、上野俊雄（以上、佛教大学考古学研究会）、大谷達彦、宇那木隆司、笠井　隆、今田忠之、加藤芳樹（以上、関西大学）、加藤淳次、上野浩司、足立　寛、森田　実、上田　睦（以上、関西大学考古学研究室）。
9. 発掘調査及び報告書作製にあたっては、大阪府教育委員会文化財保護課主査・井藤　徹、同技師・大野　薰、堺市教育委員会社会教育課文化財保護係長・奥田　豊、同技師・森村健一の各氏より多大な御教示を得た。
10. 樋野ヶ池窯跡出土資料については、未発表資料の公開を快諾していただいた、堺女子短期大学教授・島田　暁氏、並びに松原市市史編纂室長・出水睦巳氏に厚く感謝いたします。

本文目次

序	
例言	
第1章 位置と環境	1
第2章 調査経過	
1. 調査にいたる経過	3
2. 調査日誌抄	4
第3章 遺構と遺物	
1. 概観	5
2. 層序	5
3. 遺構各説	6
4. 包含層出土遺物	16
第4章 まとめ	18
付載 桶野ヶ池窯跡出土資料	
1. はじめに	19
2. 遺物	20
3. まとめ	21

図版目次

図版-1 三宅遺跡航空写真	図版-7 出土遺物
図版-2 調査地点近景（南より）	図版-8 桶野ヶ池窯跡景観（南西より）
調査風景	遺物出土状態
図版-3 遺構全景（東より）	図版-9 桶野ヶ池窯出土遺物
図版-4 掘立柱建物1（東より）	図版-10 桶野ヶ池窯出土遺物
掘立柱建物2（東より）	図版-11 桶野ヶ池窯出土遺物
図版-5 掘立柱建物3（東より）	図版-12 桶野ヶ池窯出土遺物
土壌1（南より）	図版-13 桶野ヶ池窯出土遺物
図版-6 溝（西より）	
溝（北より）	

挿 図 目 次

第1図 遺跡立地図	1
第2図 松原市遺跡分布図	2
第3図 三宅遺跡附近地形図	3
第4図 調査範囲図	4
第5図 造構全体図	折り込み4・5
第6図 土層断面図	折り込み4・5
第7図 掘立柱建物1実測図	6
第8図 掘立柱建物2(上)・3(下)実測図	7
第9図 ピット88出土羽釜実測図	8
第10図 北東ピット群掘立柱建物復元推定図	9
第11図 北西ピット群掘立柱建物復元推定図	10
第12図 上塙2(左)・3(右)実測図	13
第13図 土塙1実測図	14
第14図 土塙1出土羽釜実測図	14
第15図 溝断面図	15
第16図 包含層出土土器実測図	16
第17図 鉄製品・支脚形土製品実測図	17
第18図 調査風景	19
第19図 樹野ヶ池窯跡附近地形図	19
第20図 文様・ヘラ記号拓影	21
第21図 叩き目拓影	22
第22図 叩き目拓影	23
第23図 遺物実測図	24
第24図 遺物実測図	25
第25図 遺物実測図	26

表 目 次

第1表 ピット一覧表	11・12
第2表 樹野ヶ池窯出土遺物観察表	27~34

第1章 位置と環境

三宅遺跡は、大阪府松原市三宅町に所在し、屯倉が設置されていたと推定されている遺跡である。

遺跡は、河内台地が河内低地に向って突出した洪積段丘中位面の西縁に位置しており、さらに西へ數十メートルの所で崖を成して沖積段丘に続いている。

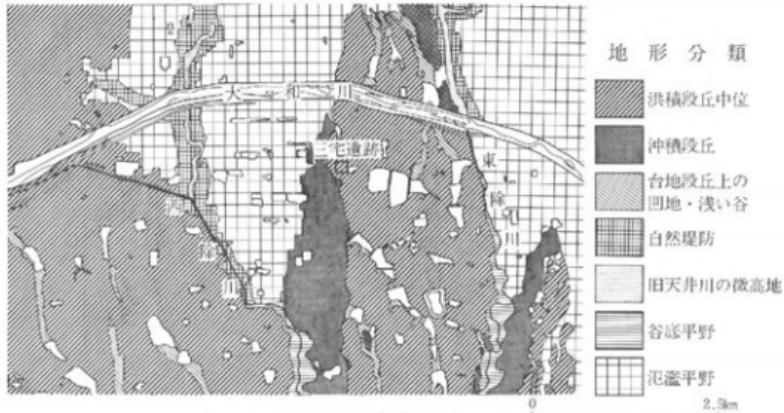
松原市における遺跡の分布を見ると、洪積段丘あるいは沖積段丘上に遺跡が点在していることがわかるが、今までのところ旧石器時代の人間の足跡は発見されておらず、近年府教委によって発掘調査された生野高校校内から出土した縄文時代晚期の土器をもって、その初現とすることができる。

弥生時代になると、しだいに遺跡が増加する傾向が見られ、河合遺跡、高見の里遺跡、瓜破遺跡等が営まれるようになる。

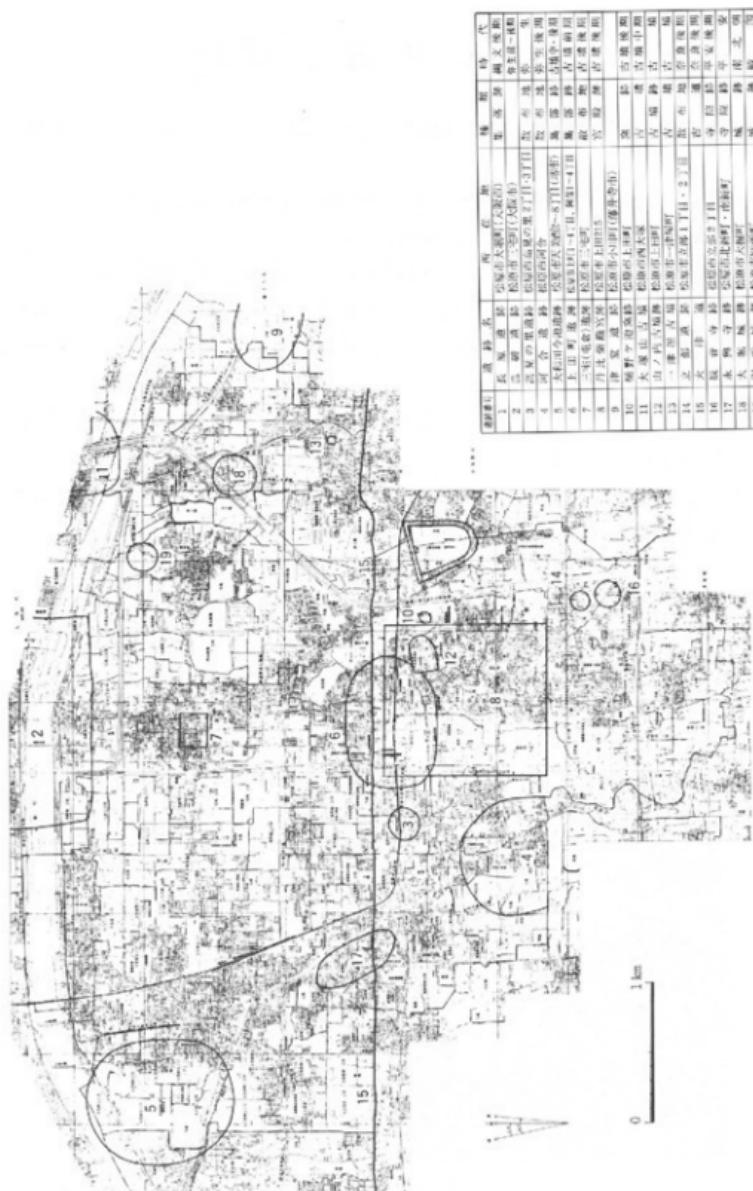
古墳時代には、上田町遺跡、河合遺跡、三宅遺跡等の他に、反正天皇の宮跡と推定されている丹比柴籬宮伝承地があり、桶野ヶ池窯跡では須恵器の生産も行なわれる。又段丘上には、雄略陵と推定されている河内大塚山古墳、山之内古墳、一津屋古墳等の古墳が造営される。

歴史時代に入ると、立部遺跡の他、難波と平城京を結ぶ古代の道である大津道が通り、又觀音寺、永興寺等の寺院が営まれ、南北朝以後、別所城、大堀城等の城が築かれるようになる。

これらの遺跡の調査例はわずかしかなく、実態は把えられていないのが現状である。しかし、百舌鳥古墳群と古市古墳群の狭間にあり、又古代の道が通るこの地方の解明は、計りしれぬ重要な問題であり、今後の大きな課題となるに違いない。



第1図 遺跡立地図



第2章 調査経過

1. 調査にいたる経過

三宅遺跡は、「日本書紀」の記載にみる依羅屯倉ヨラノミヤケ(1)がおかれていたと推定されている遺跡であるが、現在までのところ、屯倉の存在を想定し得る遺構は検出されておらず、尚その性格は不明である。

今回調査の行なわれた三宅小学校は、この三宅遺跡の範囲の南端に位置している。

三宅小学校では、近年の松原市における若年世帯の流入現象に伴って、生徒数が増加し、収容能力が限界となつたために、一部プレハブ教室での授業が行なわれていた。これに対して松原市教育委員会では昭和54年度事業で校舎の増築を行うことを決め、それに先立つて、工事予定地が遺跡の範囲内であることから、調査が行なわれることになった。

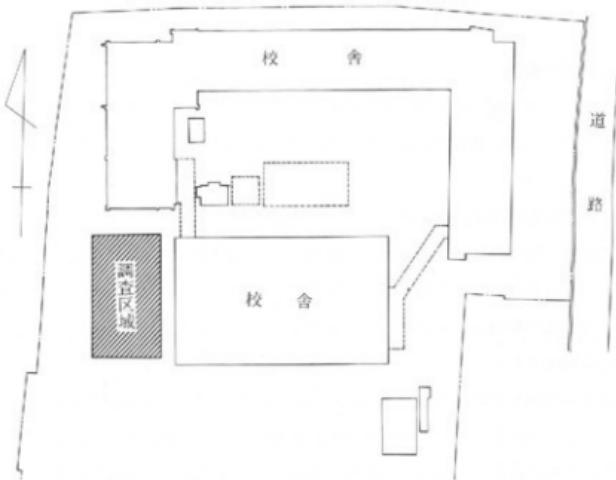
調査は、遺跡の性格が不明であるため、昭和54年7月20日にまず試掘調査を実施した。

試掘は、 $1 \times 9\text{m}$ のトレンチを工事範囲の南北両端に設定し、地表下 1.3m まで掘り下げた。その結果、地山を掘り込む、ピット・土壤等の遺構と、中世土器片が検出された。

この試掘調査の成果を踏えて、工事予定地全面の発掘調査が必要であるという結論に達し、昭和54年9月1日より10月5日まで発掘調査を実施した。



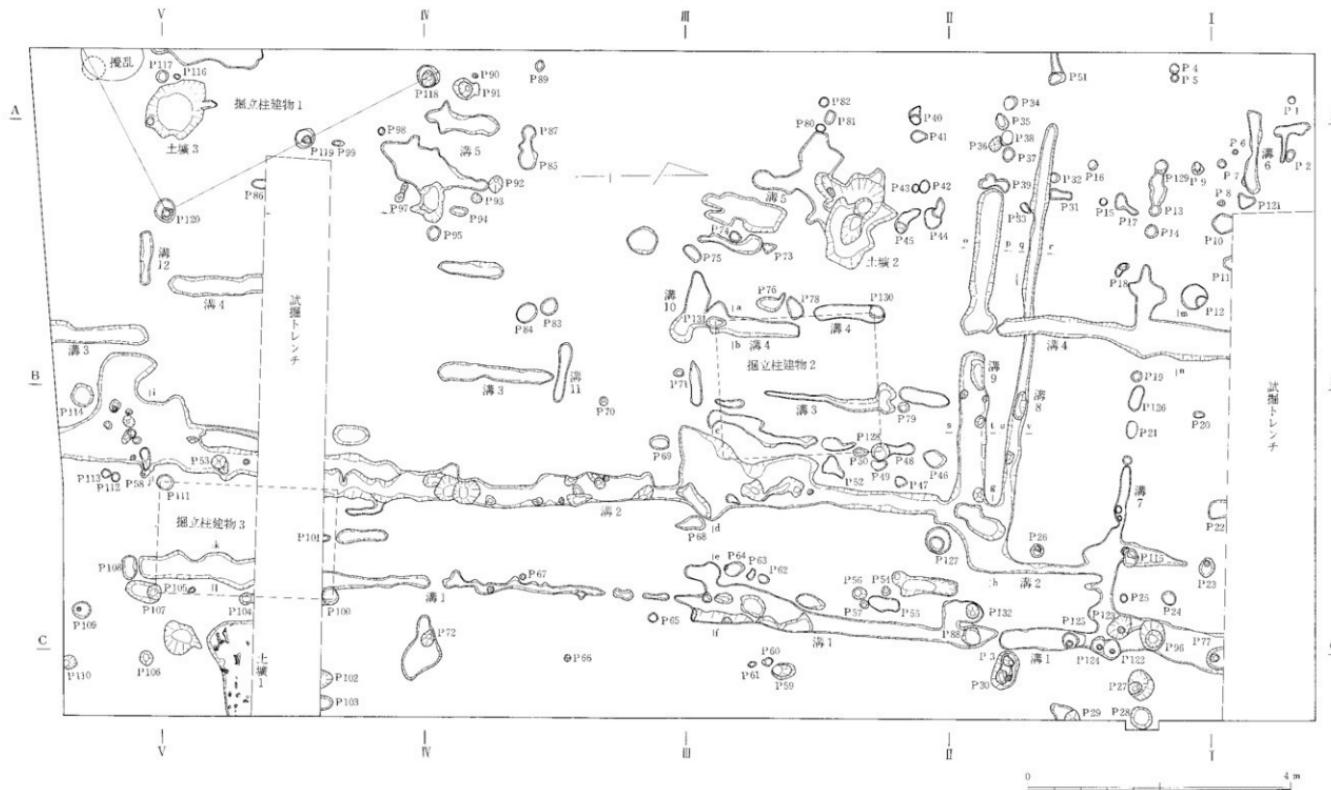
第3図 三宅遺跡附近地形図 (1:5,000)



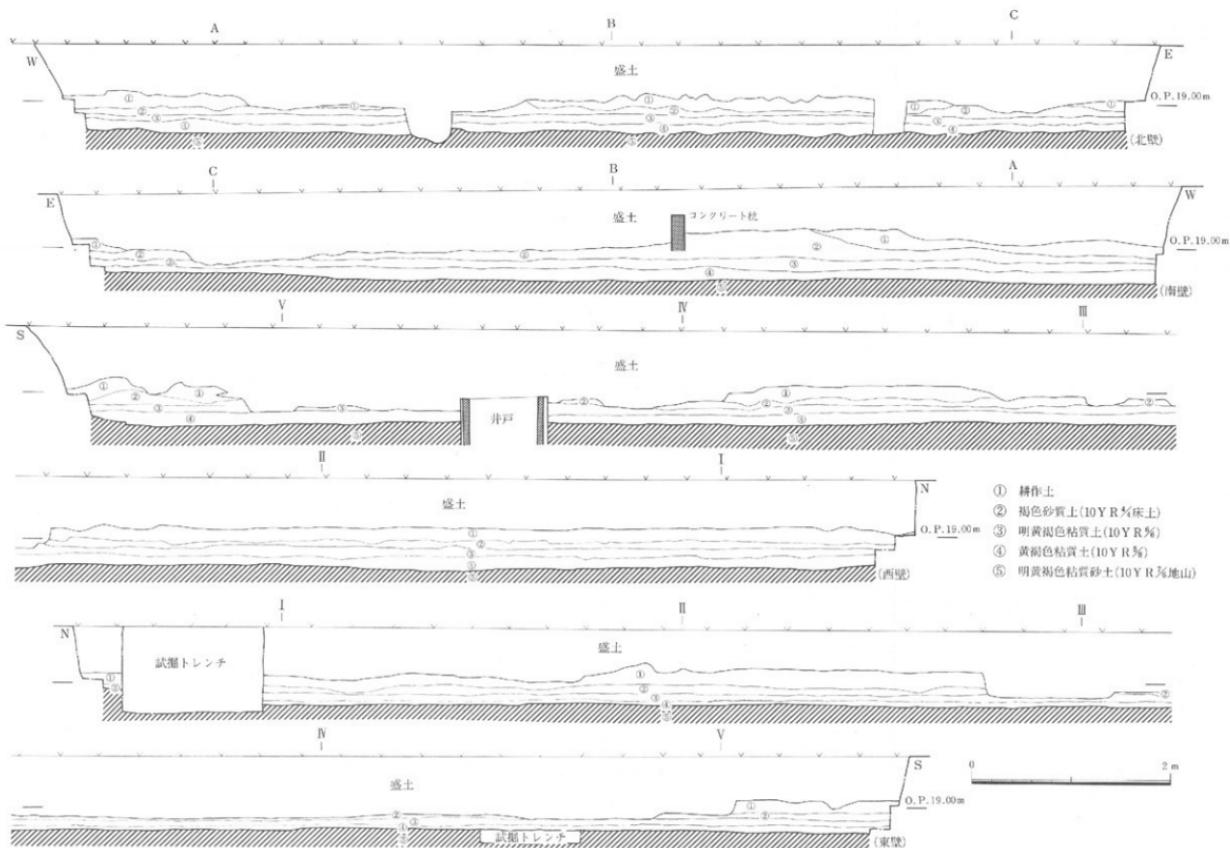
第4図 調査範囲図 (1:900)

2. 調査日誌抄

- 9月1日 バックホーによって盛土除去。
 2日 実測のための造り方設置。
 3日～5日 雨のため中止。
 6日 造り方設置終了。排水溝掘削。
 7日 午前中雨が降り、午後排水作業。
 8日 耕作土の除去作業を始める。
 9日 作業続行。
 10日 耕作土の除去作業終了。
 11日 包含層掘削を始める。
 12日 作業続行。仮開い工事を行なう。
 13日 黄褐色粘質土より支脚形土製品が出
土する。
 14日～16日 岸和田だんじり祭のため作業
員休み。
 17日 包含層掘削作業続行。
 18・19日 作業続行。十字に残した畦畔土
層断面精査。
 20日 包含層掘削終了。畦畔上層断面実測。
 21日 畦畔上層断面写真撮影後、畦畔除去。
 9月22日 造構検出作業を始める。壁面の精査
を行ない、写真撮影。
 23日 作業続行。壁面土層実測終了。
 24日 作業続行。
 25日 造構掘削を始める。
 26日 作業続行。雨のため午後から中止。
 27日 雨のため中止。
 28日 作業続行。雨のため午後から中止。
 29日 雨のため中止。
 30日 排水作業。午後から造構実測を始め
る。夜半より台風襲来する。
 10月1日 前日の台風のために、調査区域が約
40cm冠水したので、午前中排水作業。午後から
造構実測、平板実測を行なう。
 2日 造構実測終了。清掃および精査を行
なう。
 3日 作業続行。
 4日 造構写真撮影開始。
 5日 終了写真撮影。調査を終了する。



第5図 遺構全体図



第6図 土層断面図

第3章 遺構と遺物

1. 概観

発掘調査は、校舎増築部分の面積約200m²の範囲で行なった。調査によって検出された遺構は、掘立柱建物数棟・土壙3・溝12等である。

掘立柱建物は、ほぼ復元可能なもののが3棟あるものの、調査面積が小さいために、一部遺構が調査区域外に及ぶものもあり、完結した遺構として把えることは困難であった。

又上記3棟以外にも、調査区域の北東部及び北西部において、掘立柱建物を構成すると考えられるピットが群として検出され、建物が存在した可能性も充分に考えられる。

溝は、一部柱穴や土壙を切って作られており、南北方向に5条、東西方向に7条が検出された。方向を異にしている溝は互いに直交している。溝の深さは、約1cm~10cmと浅く、底部がわずかに残っている程度である。

土壙も溝と同様に底部がわずかに残っている程度であり、遺構上面は大幅に削平されたものと思われる。

尚、遺構内の埋土はすべて褐灰色土(10YR 4/4)であり、埋土の違いは見出せなかった。遺物も遺構内から出土したものは、ほんのわずかである。

以下層位関係とともに各遺構について記述してゆきたい。

2. 層位

調査区域には、現地表面から約40~60cmまで盛土があり、それから耕作土、褐色砂質土(10YR 4/4、床土)、明黄褐色粘質土(10YR 4/6)、黄褐色粘質土(10YR 4/6)、明黄褐色粘質土(10YR 4/6、地山)に分かれている。又一部耕作土上面から地山に達する擾乱が見られるが、これは盛土工事、あるいは既設建物取り壊しによるものである。

遺物は、明黄褐色粘質土と黄褐色粘質土に含まれている。しかし、細片化しており、量もわずかである。特に明黄褐色粘質土はほとんど遺物を含んでいない。

黄褐色粘質土から出土した遺物は、土師器・須恵器・瓦器及び支脚形土製品、鉄製品等があり、奈良時代から鎌倉時代までの遺物を含んでいる。

三宅遺跡は、洪積段丘の西縁に立地し、西へ数十メートルの所で崖を成して沖積段丘へ続くという地形のために、調査区域の地山が東から西へ緩く傾斜しているのであるが、堆積の状況を見ると、層の厚さが東から西へ向って序々にその厚さを増し、ほぼ水平面を成していることがわかる。

このことは、遺物の包含状態をも考えあわせて、これらの層が自然堆積によるものではなく、洪積段丘を開墾するための整地層ではないかと推定させる。

3. 遺構各説

掘立柱建物 1

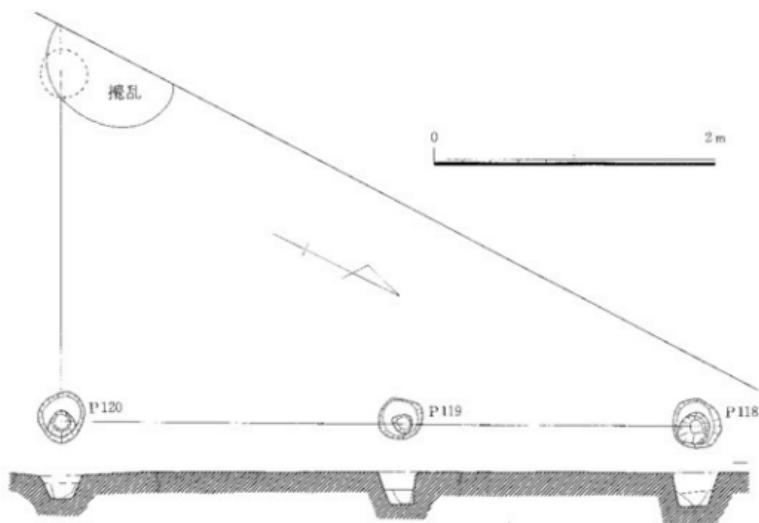
未調査区にかかっているため一部しか検出できず、平面構成は不明である。しかし、一方の柱通りで2間の柱穴が検出され、調査区域で最も大きな規模の建物であると考えられる。柱間は北から 2.1m (7尺)、 2.4m (8尺) である。柱穴は掘方の直径が約30~40cmの不整円形で、深さは約15~30cmを測る。又、直径約10~20cmの円形柱根の痕跡を残している。検出された柱通りの方向はN-26°-Wである。柱穴から遺物は出土していない。

掘立柱建物 2

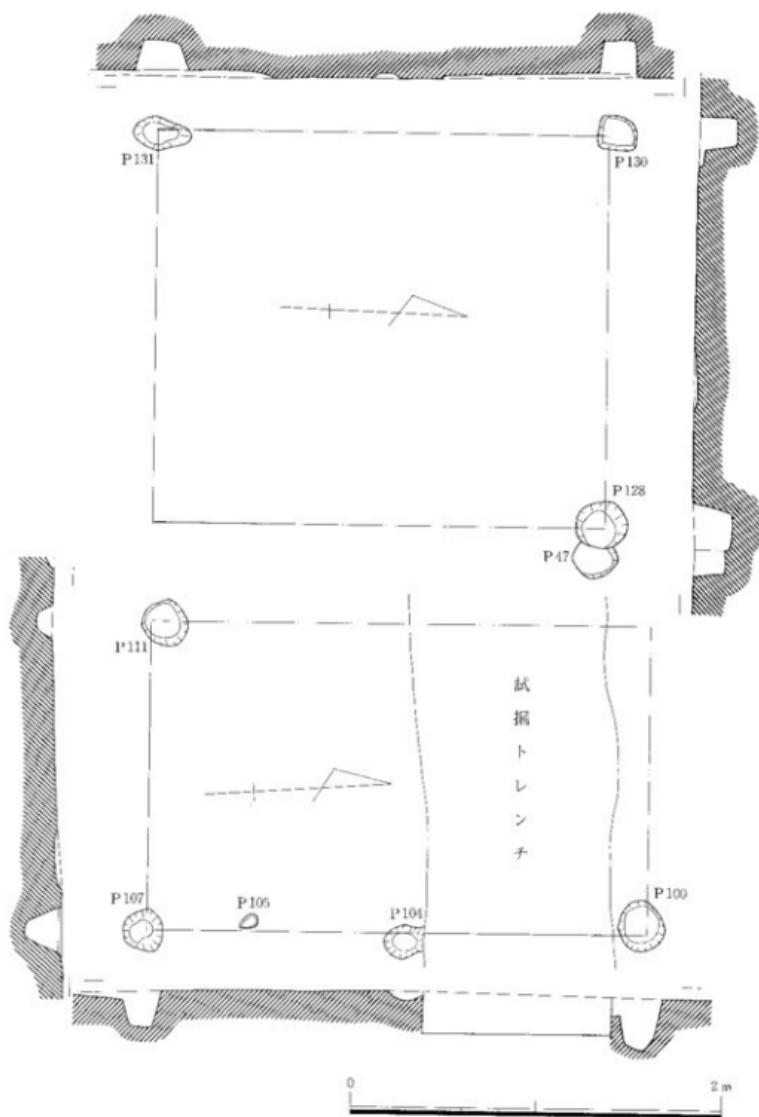
桁行1間 (2.4m : 8尺)、梁行1間 (2.1m : 7尺)の南北棟建物であるが、南東隅の柱穴を欠いている。棟方向はN-2°-Wを指す。柱穴はP130が一辺20cmの方形状を呈している他、直径30cm前後の不整円形で、深さは20cm前後を測る。柱穴から遺物は出土していない。

掘立柱建物 3

桁行2間 (2.7m : 9尺)、梁行1間 (1.65m : 5.5尺)の南北棟建物であるが、東側桁行で柱穴を2箇所欠いている。棟方向はN-3°-Wを指す。東側桁行の柱間は北から1.3m (4尺)、1.4m (4.6尺)である。柱穴は掘方の直径が約20~30cmの不整円形で、深さは約5~30cmを測る。柱穴から遺物は出土していない。



第7図 掘立柱建物1実測図



第8図 挖立柱建物2(上)・3(下)実測図

北東ピット群

調査区域の北東部には、掘立柱建物を構成すると考えられるピットがかたまった状態で検出される。それは、柱根の痕跡を残しているピットがあることからも明らかである。しかし、調査区域の端であるために、建物を復元することは困難で、推定の域を出ない。

一部復元推定したものを、掘立柱建物4、掘立柱建物5とした。

掘立柱建物4は桁行1間以上、梁行1間（2m：6.6尺）の東西棟建物で、棟方向はN-68°-Eを指す。桁行の柱間は2.3m（7.6尺）である。柱穴は北西隅を欠いているが、掘り方の直径が約30～40cmの不整円形で、深さは約20～70cmを測る。又円形柱根の痕跡を残している。

掘立柱建物5は桁行1間以上、梁行1間（1.8m：6尺）の東西棟建物で、棟方向はN-79°-Wを指す。桁行の柱間は2m（6.6尺）である。柱穴は北西隅を欠いているが、掘り方の直径が約15～25cmの不整円形で、深さは10cm前後を測る。

又P23、115、26、127は南北方向で直線上に並ぶが、対応するピットがない。

北西ピット群

北東ピット群と同様に建物の存在が推定されるが復元は困難である。ピットも北東部に較べ小さく、深さも浅い、又柱根の痕跡を残しているものはP12だけである。

建物として一応推定されるものは、図上に示しておいた。

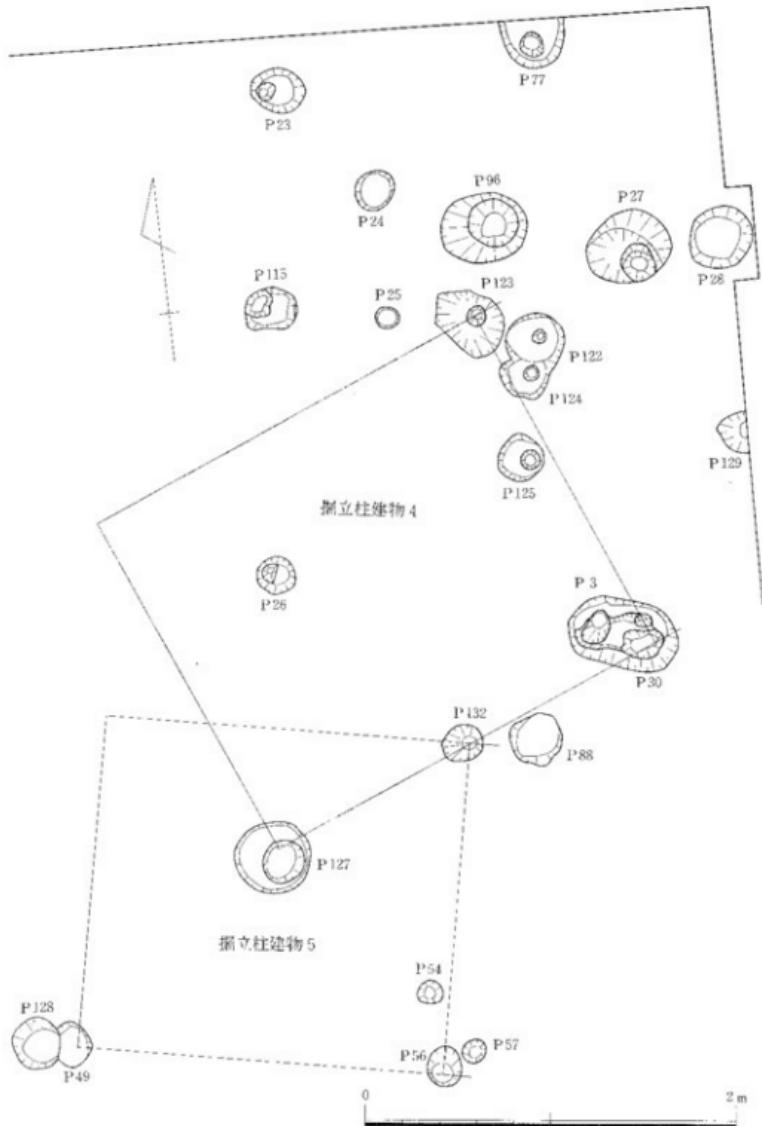
ピット88出土羽釜（図版7-14）

復元つば径33.8cm、残存高7.9cmを測る土師質の羽釜である。内傾する口頭部に、ぐの字形に外反する口縁部をもつ。つばは水平にのび、端部は丸くおわっている。又つばの接合部上方に扁平な細い凸帯を有する。調整は、口縁部内外面、つばにナテ調整を施している。色調は、外面が橙色、内面が浅黄橙色を呈し、つばから下は煤が付着している。胎土は白色砂粒、金雲母を含んでおり、焼成は良好である。

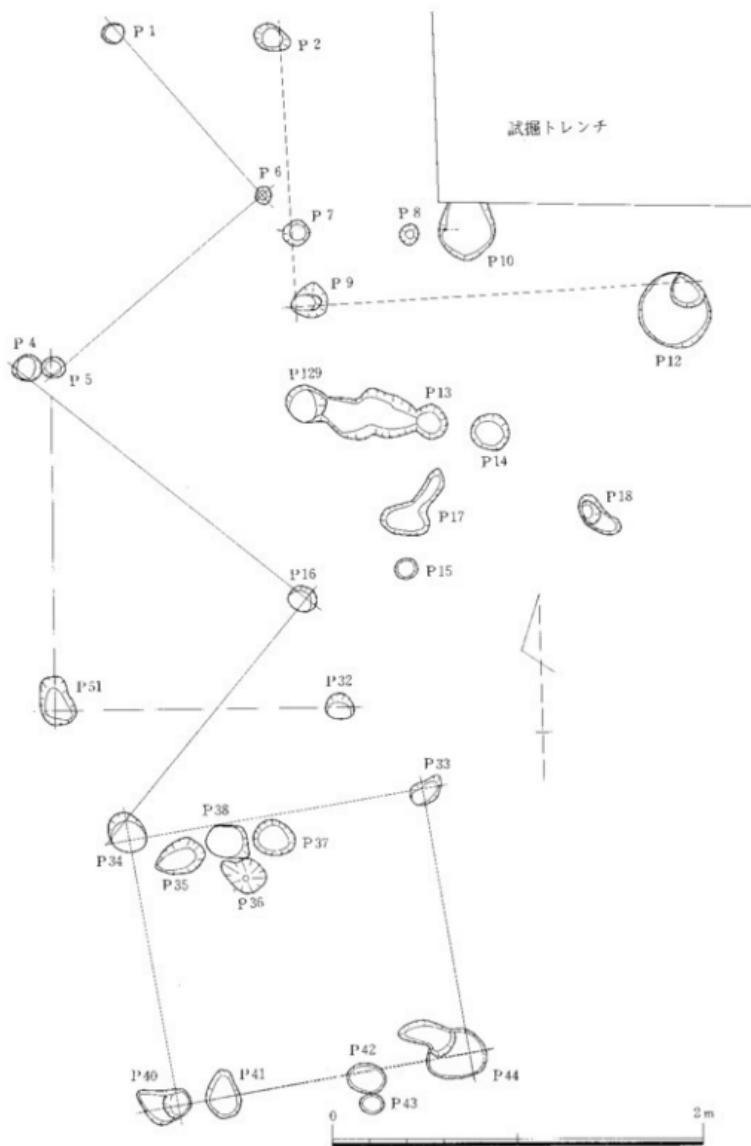
時期は、鎌倉時代前半頃と考えられる。



第9図 ピット88出土羽釜実測図



第10図 北東ピット群据立柱建物復元推定図



第11図 北西ピット群掘立柱建物復元推定図

第2表 ピット一覧表

番号	規 模 (cm)				遺 物	番号	規 模 (cm)				遺 物
	長 径	短 径	深 さ	柱痕径			長 径	短 径	深 さ	柱痕径	
1	12.0	11.5	17.0		上師器片	34	23.0	18.5	15.5		
2	20.0	13.0	21.4			35	26.5	17.5	2.9		
3	—	32.0	61.2			36	25.5	17.5	9.0		
4	15.5	14.0	18.3			37	22.0	18.0	3.7		
5	13.0	11.5	4.4			38	24.5	17.0	20.4		
6	9.5	8.0	15.5			39	47.5	21.0	3.2		
7	14.0	12.5	2.6			40	27.5	15.5	33.0		
8	11.5	9.5	3.0			41	25.0	18.5	3.5		
9	20.0	17.0	23.5			42	20.0	16.0	2.2		
10	38.5	29.5	2.7		瓦器片	43	13.0	11.0	2.8		
11	28.5	22.0	2.4			44	48.5	30.5	4.2		
12	40.5	36.5	27.0	19.0		45	48.5	20.0	6.2		
13	18.5	16.0	3.2			46	35.5	28.0	2.1		
14	20.5	19.0	4.1			47	19.0	17.0	2.3		
15	11.5	11.5	7.3			48	35.0	18.0	5.5		
16	15.0	13.5	7.0			49	25.0	15.5	16.3		
17	42.0	26.0	6.6		瓦器片	50	23.0	14.5	6.0		
18	26.5	12.0	11.4	13.0		51	26.0	19.0	16.3	土師器片	
19	17.0	16.0	1.9			52	36.5	30.5	2.4		
20	17.0	10.0	1.3			53	32.0	21.5	22.7	土師器片、瓦器片	
21	14.5	13.5	2.2			54	14.0	13.0	8.9	土師器片	
22	37.0	27.5	4.1			55	48.5	22.0	4.1		
23	29.5	24.5	6.0	9.5		56	22.0	18.0	13.1		
24	23.0	20.5	5.7			57	13.5	12.0	12.3	土師器片	
25	12.5	11.5	7.0			58	11.5	8.9	9.1	土師器片、瓦器片	
26	21.0	20.0	8.0			59	37.0	24.0	4.2		
27	45.5	39.0	31.5	17.5	土師質鋸釜片、瓦器片	60	17.0	13.0	3.8		
28	36.0	32.5	51.0		土師器片	61	12.5	8.0	1.5		
29	49.0	29.0	8.9			62	18.0	13.5	1.7		
30	—	36.0	73.2		土師器片、瓦器片	63	18.5	9.5	3.5		
31	35.0	13.0	2.9			64	30.5	19.0	3.0		
32	15.5	14.0	3.5			65	14.5	13.5	1.9		
33	19.0	11.5	2.1			66	10.5	9.5	5.5		

番号	規 模 (cm)				造 物	番号	規 模 (cm)				造 物
	長 径	短 径	深 さ	柱痕径			長 径	短 径	深 さ	柱痕径	
67	9.5	9.0	2.5			100	27.5	25.0	29.4		
68	45.5	21.5	4.0		瓦器片	101	19.0	10.0	2.5		
69	29.5	20.5	3.0			102	32.0	26.5	10.1		
70	14.0	13.0	4.6			103	36.0	23.0	4.5		
71	16.0	13.0	2.5			104	21.5	18.5	5.5		
72	27.0	16.0	14.8			105	11.0	7.0	3.7		
73	21.5	16.0	4.0			106	22.0	19.5	16.0		
74	19.0	14.5	3.5			107	23.0	21.0	20.4		土師器片、瓦器片
75	31.5	17.5	2.4			108	36.0	21.0	2.8		
76	46.5	22.5	10.8			109	27.5	26.0	22.0		
77	44.0	34.0	22.6	11.5	土師器片	110	24.5	22.0	4.5		
78	34.0	23.0	3.7			111	25.5	23.0	8.5		
79	17.5	16.0	4.0			112	14.0	14.0	3.0		
80	14.5	13.0	6.6			113	14.5	13.0	3.5		
81	22.5	14.5	4.4			114	38.0	33.5	2.5		
82	15.5	14.5	2.0			115	27.5	23.0	17.0	16.0	
83	28.5	24.5	2.5			116	16.0	7.5	2.5		
84	35.0	27.0	1.8			117	19.0	18.5	4.0		
85	46.0	27.0	5.3			118	36.5	33.5	28.2	22.0	
86	27.5	14.0	3.0		瓦器片	119	33.0	29.5	22.5	13.5	
87	22.5	20.5	1.5			120	36.5	31.0	16.0	13.0	
88	28.5	24.5	18.6		土師實羽筆	121	25.0	20.5	4.5		
89	18.0	13.0	2.2			122	31.5	28.5	25.9	8.0	
90	9.0	6.0	5.0			123	42.5	30.0	22.9	10.5	
91	41.0	31.0	23.5		土師器片	124	27.0	21.5	21.2	9.0	
92	26.5	21.0	7.0			125	26.5	24.5	27.3	10.0	
93	17.0	14.5	17.2			126	27.0	17.0	1.2		
94	28.0	13.5	1.7			127	40.5	39.0	19.3	23.5	
95	22.5	20.0	2.0			128	27.0	25.0	22.9		
96	46.0	38.0	24.1			129	69.0	25.0	21.0		
97	32.5	13.5	3.0			130	21.0	18.0	19.5		
98	12.0	11.0	3.0			131	31.5	18.0	16.5		
99	19.0	9.0	3.0			132	22.0	19.0	7.7		

土壤 1

試掘トレンチによって切られ、未調査区域にまで遺構が拡っていることから規模は不明であるが、土壤の平面形は隅円長方形であると考えられる。長軸方向はN-79°-Eを示す。深さは約5cm前後と浅く、上部はかなり削平されていて、底面は比較的平坦である。

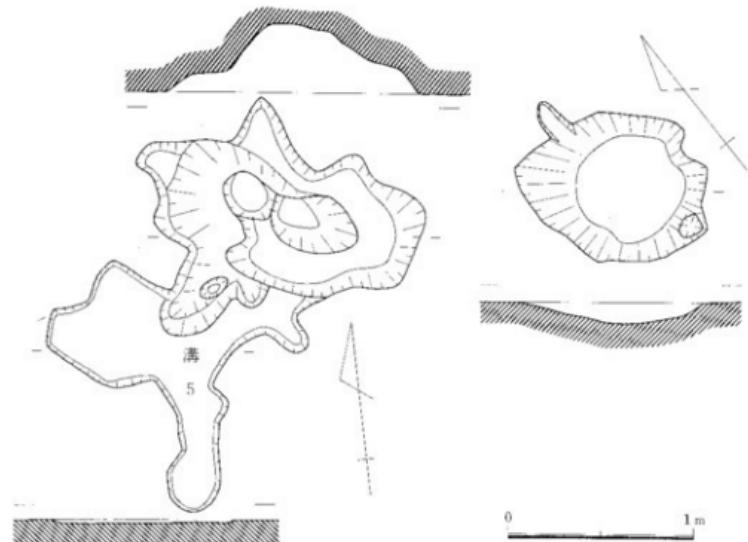
遺物は、底部を欠く土師質羽釜（図版7-13）が、土壤底面に散乱した状態で出土した。羽釜は、内傾する口頭部に、くの字形に外反する口縁部をもち、つばは上向きにのびていて、端部は丸い。復元口径22.7cm、復元つば径29cmを測る。口縁部内外面、頭部外面、つばはナデ調整が施され、頭部外面には指圧痕を残している。色調は赤褐色を呈し、つばから下は煤が付着している。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好である。時期は鎌倉時代前半頃と考えられる。

土壤 2

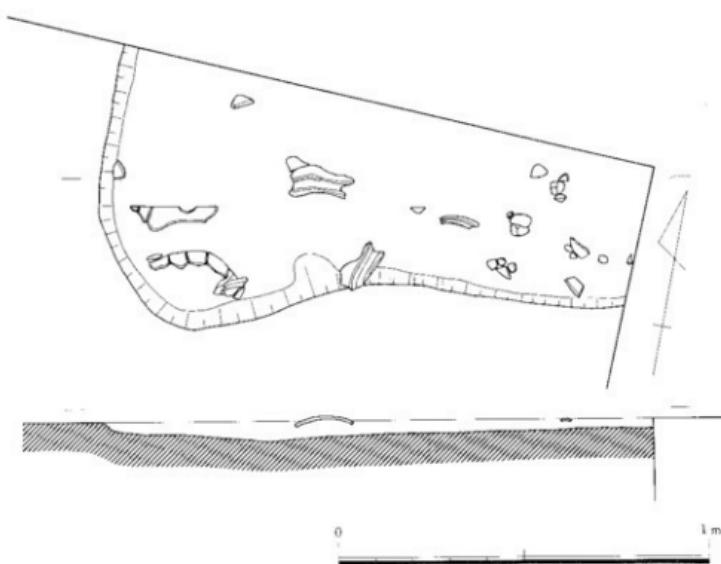
溝5によって切られているために平面は不整形を呈しているが、ほぼ長軸140cm、短軸60cmの隅円長方形であると考えられる。掘り方は段を成しており、深さは最も深い中央部で約37cmを測る。遺物は土師器細片をわずかに含んでいる。

土壤 3

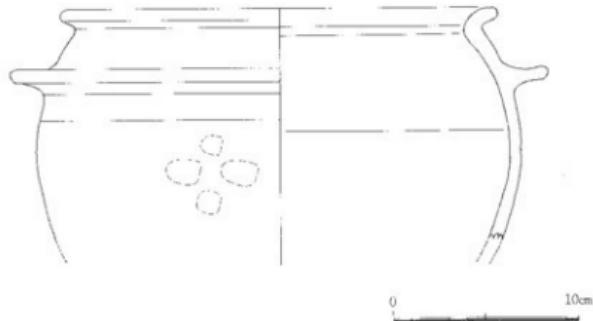
長軸108cm、短軸80cmの平面橢円形の土壤である。深さは中央部で約11cmを測り、南側が深く、北へ向って浅くなっている。遺物は出土していない。



第12図 土壌2(左)・3(右)実測図



第13図 土壌 1 実測図



第14図 土壌 1 出土羽釜実測図

溝

耕作用と考えられる溝が、南北方向に5条、東西方向に7条検出された。しかし、上部がかなり削平されており、底部をわずかに残すだけとなっている。特に調査区域の東側に較べ、西側はそれが顕著で、連続した溝としては検出されず、断片的に溝の痕跡が見られるにすぎない。

これらの溝は、南北溝、東西溝とも平行かつ直線的に配列されており、南北溝と東西溝はほぼ直角に交わる。水流の方向は、地形の傾斜に沿って東西溝が東から西へ、又南北溝が北から南へ向って流れているが、溝底の勾配は緩やかである。

遺物は、どの溝も細片を少量含むだけで、埋土にも相違が認められないところから、各溝に時期差があるのか、あるいは同時期に使用されていたものであるのかは判然としない。

溝1 幅約50~60cm、深さ約1~5cmの南北溝。遺物は土師器・須恵器・瓦器細片が出土。

溝2 幅約50~70cm、深さ約1~10cmの南北溝。溝8・9との交差部分でズレを生じている。

遺物は土師器・須恵器・瓦器細片が出土。

溝3・5 底部が部分的に残る、深さ約2cm前後の南北溝。遺物はない。

溝4 幅約50cm前後、深さ約1~10cmの南北溝。南側は断続的に検出され、遺物はない。

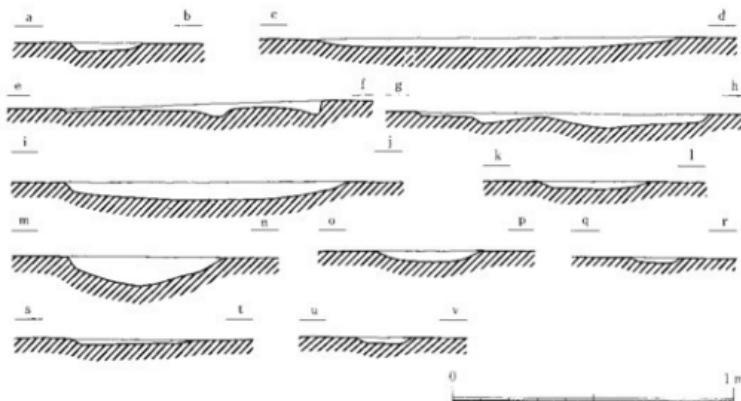
溝6・7 底部が部分的に残る、幅20~30cm、深さ約3cm前後の東西溝。遺物はない。

溝8 幅約20~30cm、深さ約2cm前後の東西溝。遺物は土師器・瓦器細片が出土。

溝9 幅約40cm、深さ約3cm前後の東西溝。遺物は土師器・瓦器細片が出土。

溝10 底部が部分的に残る、深さ約3cm前後の東西溝。遺物は瓦器細片が出土。

溝11・12 底部が部分的に残る、幅約20cm前後、深さ2cm前後の東西溝。遺物はない。



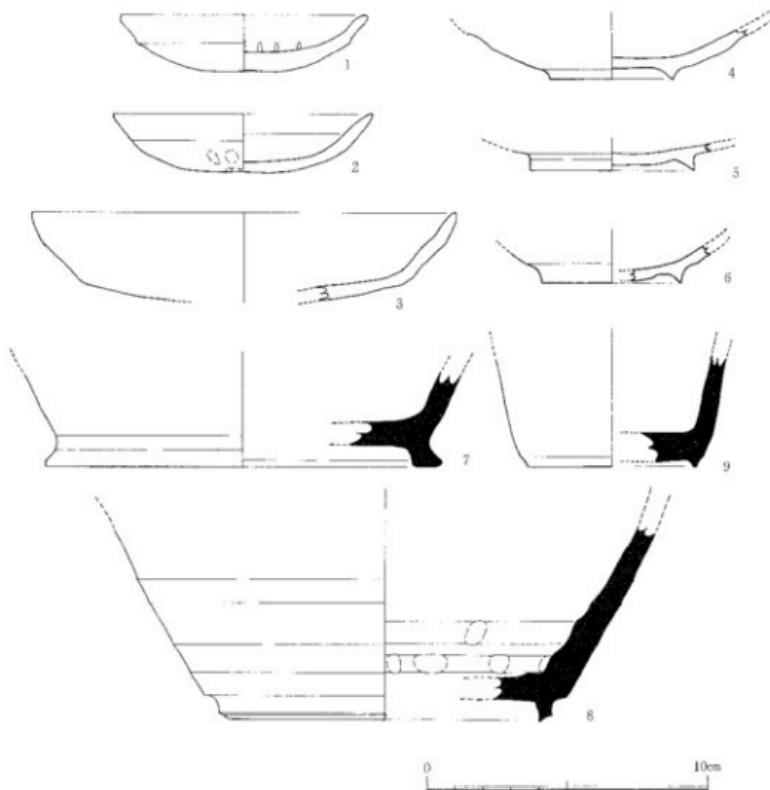
第15図 溝断面図

4. 包含層出土遺物

遺物は、明黄褐色粘質土と黄褐色粘質土に含まれているが、明黄褐色粘質土は中世の遺物細片をわずかに含んでいるだけであり、実測可能なものはすべて黄褐色粘質土から出土している。黄褐色粘質土には、奈良時代～鎌倉時代の遺物が含まれている。

土師質皿

(3)復元口径15cm、器高が約3cmの皿である。平坦な底部から外縁気味に外方へ開き、さらに口縁部で屈曲して内傾し、口縁端部は丸味をもって終わっている。口縁部外面は横ナデが施されているが、その他の部分は器面の剥離が著しく不明である。色調は乳黄色を呈し、胎土は砂粒



第16図 包含層出土土器実測図

を多く含んでいて、焼成は良好である。

瓦器碗

(4)高台径約4.4cmを測る底部破片で、高台は断面三角形を呈し、体部はゆるやかに立ち上がっている。外面には指押えの跡が残る。色調は黒褐色を呈し、胎土、焼成とも良好である。

(5)高台径約5.8cmを測る底部破片で、高台は断面三角形を呈し、調整は不明である。色調は黒灰色を呈し、胎土、焼成とも良好である。

(6)高台径約5cmを測る底部破片で、高台は断面三角形を呈し、調整は不明である。色調は黒灰色を呈し、胎土はわずかな砂粒を含んでいて、焼成は良好である。

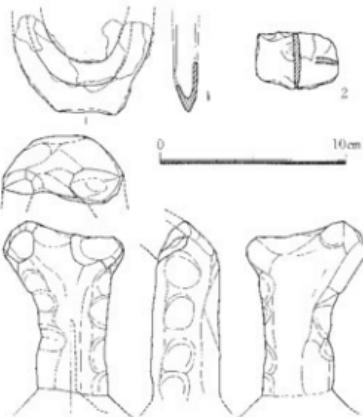
瓦質小皿

(1)復元口径8.7cm、器高2.0cmを測る。

わずかに凹んだ底部からゆるやかに内寄り、口縁部で屈曲して上外方へのびる。端部は丸い。口縁部外表面は横ナデ、底部外表面は指押えの跡が見られ、内面には平行の暗文がかすかに残る。色調は黒灰色を呈し、胎土、焼成とも良好。

(2)復元口径8.2cm、器高2.1cmを測る。

ゆるやかに内寄りして立ち上がり、端部は丸い。口縁部外表面は横ナデ、底部内表面は刷毛目状のナデ調整を施し、外面には指押えの跡が残る。色調は黒灰色を呈し、胎土、焼成とも良好。



第17図 鉄製品・支脚形土製品実測図

須恵器

(7)復元高台径14.1cm、高台高0.7cmを測る高台付の蓋底部。高台は外下方に張り出し、端部は丸味をもつ。内外面とも横ナデ調整を施す。色調は暗灰色を呈し、胎土、焼成とも良好。

(8)復元高台径11.8cm、高台高0.75cmを測る高台付の蓋底部。高台はわずかに外下方に張り出し、端部で接地する。外面は横ナデ調整が施されているが、内面は器面が荒れているため不明。色調は灰色を呈し、胎土、焼成とも良好。

(9)復元高台径6cmを測る瓶子。高台は貼りつけで、断面三角形を呈する。内外面とも横ナデ調整が施される。色調は白灰色を呈し、胎土はわずかに黑色砂粒を含んでいて、焼成は良好。

支脚形土製品（図版7-10）

中空の円柱を絞り、上部にV字形に突出する2本の突起をつけたもので、縫は貼り付けによって作られている。背面突起はない。柱状部分の側面には指頭圧痕が残り、表面はヘラ状の工

具でナデられている。残存高10cm、柱状部幅約3.7cm、厚さ約3.7cmを測る。色調は黄褐色を呈し、突起部分に焼成痕があるが、二次焼成によるものであるかは不明である。

この形態は、大橋信弥氏の分類によるとDタイプに分類されるもので、その時期は弥生時代終末を上限、奈良時代を下限とされている。⁽²⁾

鉄製品

(1) (図版7-12) 残存幅7.5cm、残存高5cmの袋状の鉄製品である。袋部分は背面が前面に較べて高く作られ、背面は平らに近い。鍛錬先あるいは、右側面が左側面に較べて直線的であることから、唐錬先と考えられる。

(2) (図版7-11) 残存長4.5cm、幅3cmの鉄片で、右側と下方に刃部をもち、上方は面を成している。用途は不明。

第4章 まとめ

今回の調査によって、鎌倉時代の掘立柱建物と土塹、そして溝を検出することができたが、上部がかなり削平されており、又遺構からほとんど遺物が出土しないという状態であったために、遺構相互の関係については充分に把握することができなかった。

掘立柱建物は、棟方向の異なるものが見られ、時期を異にするいくつかのまとまりがあるものと思われる。又掘立柱建物2・3等の1間×1間、1間×2間の建物は、納屋あるいは倉としての機能が推定される。

溝は、掘立柱建物、土塹を切って作られ、縦横に配されていて、中世における旺盛な台地開墾の様子が窺われる。

以上のように、三宅遺跡において中世の遺構が検出されたのであるが、調査は遺跡のほんの一部分であり、今後の総合的な調査と保存の問題を検討してゆかなければならぬ。

そしてまた、三宅遺跡においては、屯倉の存在を確認することも今後の大きな問題である。

註

(1) 『日本書紀』仁德天皇42年9月条、同皇極天皇元年5月条等にその記載が見られる。

(2) 大橋信弥「支脚形土製品の系譜」(『古代研究』17、元興寺文化財研究所考古学研究室、1978)

付載 桶野ヶ池窯跡出土資料

1. はじめに

桶野ヶ池は、洪積段丘を刻む開析谷を塞き止めて作られた池である。東は河内大塚山古墳、西は反正天皇の丹比柴籬宮伝承地に近接し、又すぐ北には難波と平城京を結ぶ奈良時代の古道である長尾街道が通っている。



第18図 調査風景

桶野ヶ池には、南北に伸びた中島があり、その附近からは須恵器が出土することが以前から知られていたらしい。そして昭和45年には、多數の須恵器が発見され、須恵器窯跡の存在が確認された。⁽¹⁾その後も土器の出土は相次ぎ、又心無い盗掘等が行なわれたために、現状のままで破壊、消滅する恐れがあり、遺跡の範囲を確認し、保存問題を検討することが急務となった。

そこで、松原市市史編纂室は、堺女子短期大学教授島田暁氏を担当者として調査を行なった。調査は、中島の北東部に東西2m、南北10mのトレンチを設定して、昭和49年2月2日から4日まで行なわれ、その結果、窯体の奥壁と側壁の一帯が確認された。検出された窯跡は一基である。

出土した遺物は未発表であるが、河内地方における単独窯という貴重な資料であるので、資



第19図 桶野ヶ池窯跡附近地形図 (1:5,000)

料紹介として公開することをお許しいただいた。

2. 遺物

器種は、蓋杯・高杯・壺・甕・提瓶等があり、以下各器種について観察し得た知見を記すことにする。

杯 蓋

杯蓋はその形態から3類型に分類することができる。

蓋A類（第23図2、3、6、8～12、17、20、22、23、25、26、29、32）口径15cm前後で、器高は口径に対して比較的高い。稜は形骸化しているが、まだ天井部と口縁の境は明瞭であり、口縁部が垂直気味に下方へ下っている。

蓋B類（第23図13、15、16、18、19、21、28、30、31）A類と形態は似ているが、口径17cm前後と大きく、器高は口径に対して低くなっている。天井部は比較的扁平である。

蓋C類（第23図1、4、5、7、14、24、27）全体が丸味をもっており、天井部から口縁部への移行が明瞭でなくからうじて沈線によって区別されている。

口縁部内面は、内傾する段を有するものと、細い沈線を巡らして段に凝しているものがあり、又単に口縁端部を丸くおさめているものもある。これらは3類型ともに見られる。

天井部内面は不整方向のナデ調整が施されているが、同心円印き、あるいは円弧印きを残すものがあり、杯身に較べてその数が多い。天井部外面にヘラ記号を有するものもある。

杯身

杯身はその形態から2類型に分類することができる。

杯A類（第24図34、35、37、38、40、41、43～47、49、51、52、54、55、57～59、61、62、64）口径12cm前後で、たちあがりは、わずかに内傾するものと、内傾した後、直立するものがある。

杯B類（第24図上記番号以外、第25図66～75）口径14cm前後と大きく、底部は口径に対して浅く、扁平である。たちあがりは比較的短く、内傾するものと、内傾した後、直立するものがある。

口縁部内面は、不明瞭な段を成すもの、細い沈線を巡らすもの、又単に口縁端部を丸くおさめるものがあり、受部は、水平にのびるもの、上方にのびるもの、又断面三角形を呈するものがある。そしてこれらは両類型に見られる。底部内面には、同心円印き、あるいは円弧印きを残すものがある。

高杯（第25図76～79）

脚部破片と有蓋高杯の蓋のつまみが出土している。脚には長方形のスカシ窓が、二方、三方四方向にそれぞれ刻まれているが、二段に配されたものがあるかどうかは不明である。

甕（第25図80）

口縁部破片が一片だけ出土している。

壺（第25図81）

短頸壺の破片で、肩部に重ね焼の痕跡が残っていることから、蓋付きの壺と考えられる。

提瓶（第25図82）

把手部分の破片で、把手は輪状を成している。

甕

甕は、器壁が厚く、端部を屈曲させて丸く仕上げているもの（第25図83～86・91）と、器壁が薄く、口縁部外面に凸帯を巡らせたような形を呈するもの（第25図87～90・92）に分類される。

叩き目文様

外面はすべて平行叩きが施され、その上にカキ目調整をしているものが多い。内面は同心円、円弧状の叩きが施され、スリケシ、半スリケシ等の2次調整は見られない。

3.まとめ

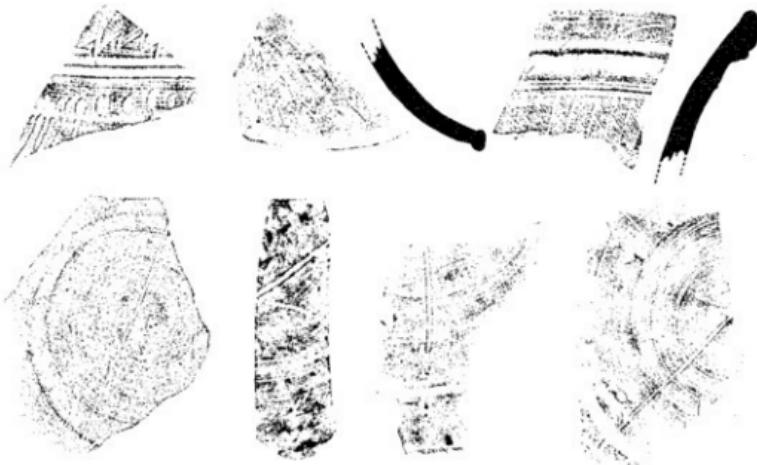
以上、桶野ヶ池窯出土の須恵器について述べてきたが、これらの時期は、陶邑窯の編年⁽²⁾に従うと、Ⅱ型式の第2段階と第3段階に対比できるものと思われる。

最後に、桶野ヶ池窯跡の現状は、開発の波がすぐそばまで押し寄せ、又中島の自然崩壊も進んで危機に瀕しており、何らかの具体的保存処置を取られることが切望される。

註

(1) 野上太助「河内における池溝開発について」（『羽曳野史』3、1978）

(2) 中村 浩「陶邑Ⅲ」（『大阪府文化財調査報告書』第30編、大阪府教育委員会、1978）

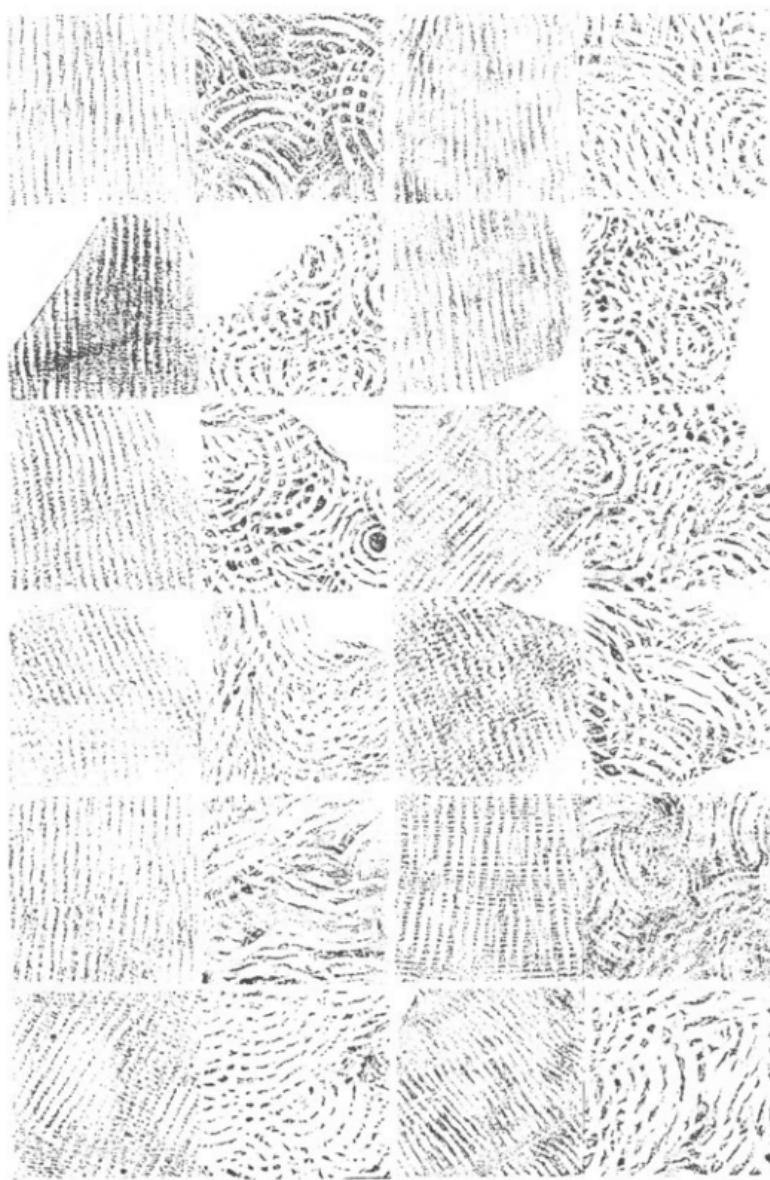


第20図 文様・ヘラ記号拓影

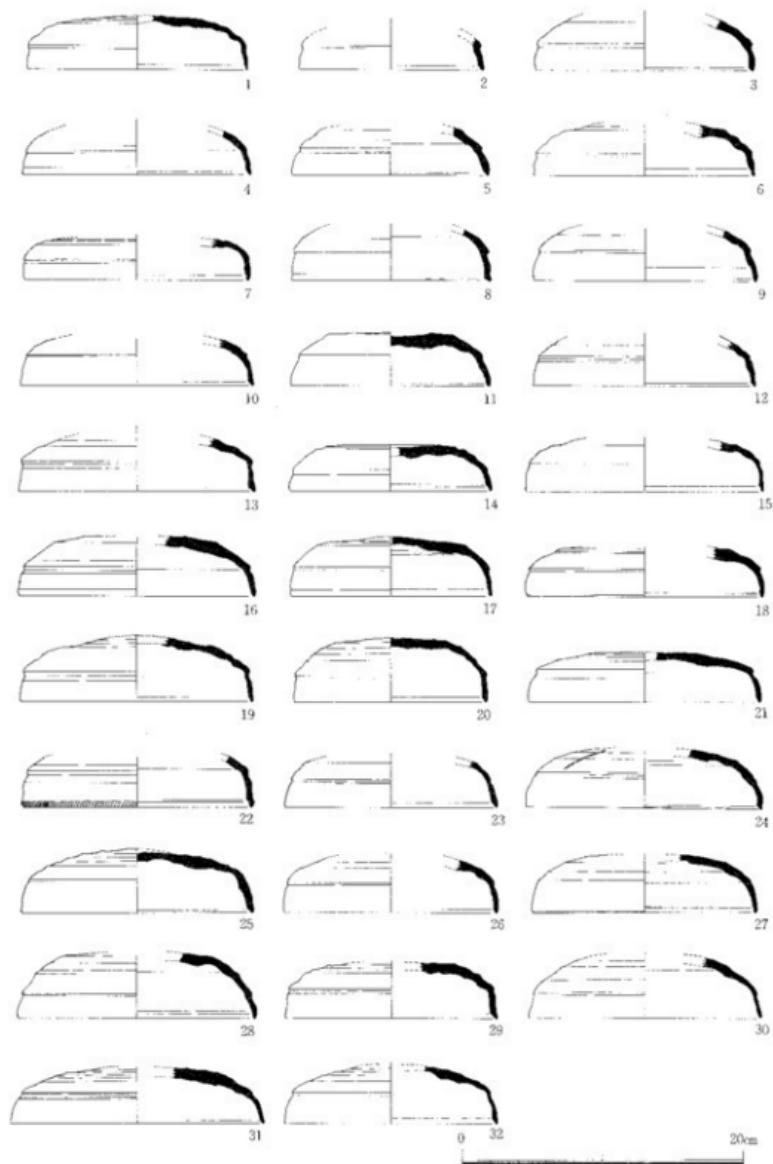




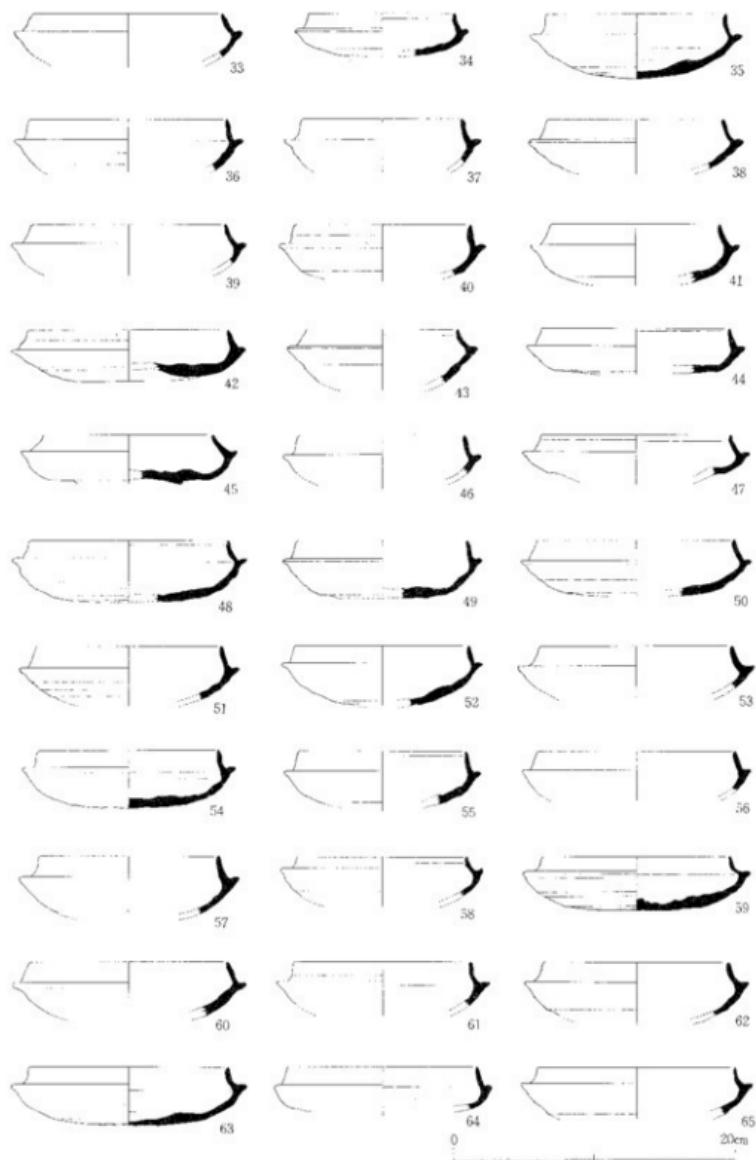
第21図 叩き目拓影



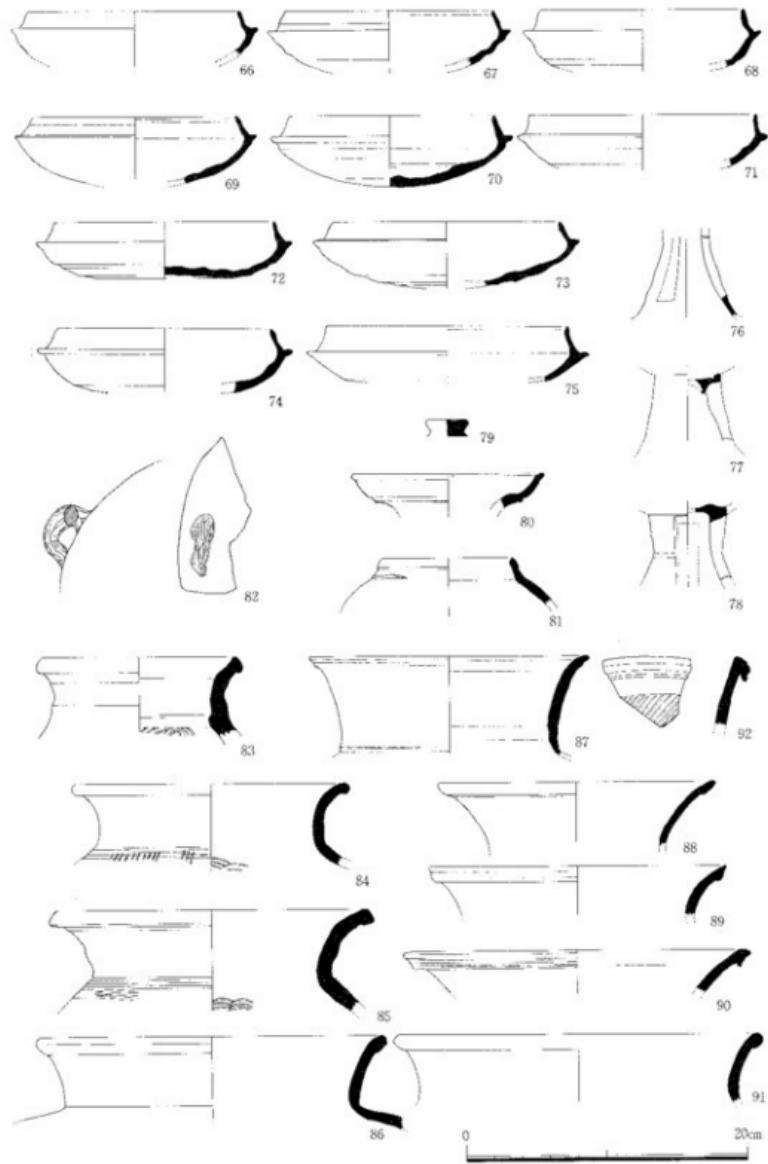
第22図 叩き目拓影



第23図 遺物実測図



第24図 遺物実測図



第25図 遺物実測図

第2表 横野ヶ池窯出土遺物観察表

種類	標目番号	法 直(cm)	形 總 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
蓋 杯 (蓋)	1	口径 15.6 残存高 3.9 縦径 15.4	口縁部は、やや内凹しながら下り、端部はやや 斜く、内面に浅い沈線をめぐらせている。 枝は焼化し、ゆるい。 天井部は低く、やや水平に近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外周面、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナタ調整。 (天井部内面中央部は不整方向に ナタ調整を施しており、同心円の タキナカがみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：外、断面 青灰色 (5 B G 5) 胎土：外、粗。1mm程度の白色 砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	2	口径 13.0 残存高 2.3 縦径 12.7	口縁部は、やや内凹しながら下り、端部付近で やや外反している。端部は丸く、内面に浅い沈 線をめぐらせている。枝は浅くゆるい。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナタ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：外、断面 オリーブ灰青 (10 Y 5 R) 胎土：やや密。1mm程度の白色 砂粒を含む。 焼成：不良。残存%。
同 上	3	口径 15.4 残存高 3.6 縦径 15.2	口縁部は、内凹気味に丸味をおびながら下り。 端部はやや丸く、内側に深く凹む。 枝は低く、やや斜い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外周、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナタ調整。	色調：内、外、断面 黄褐色 (7.5 Y 1 R) 胎土：やや密。1mm程度の白色砂 粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	4	口径 16.2 残存高 3.1 縦径 15.6	口縁部は、内凹気味に下り、端部付近で少し外 反している。端部はやや斜く、内面に深く凹む。 枝は低くのみをとどめている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナタ調整。	色調：内、外、断面 青灰色 (5 B G 5) 胎土：密。0.1~0.3mm程度の白色 砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	5	口径 13.8 残存高 4.4 縦径 12.8	口縁部は、下外方にまっすぐ下り、端部はやや 斜く、内面にわずかな段をなしている。枝は浅く めぐらすことによって作り直しており、短くやや斜い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナタ調整。	色調：内、外、断面 黄褐色 (2.5 Y 1 R) 胎土：やや粗。1~2mm程度の白色 砂粒含む。 焼成：不良。残存%。
同 上	6	口径 15.6 残存高 3.6 縦径 13.3	口縁部は、内凹気味に下り、端部付近で少し外 反している。端部はやや斜く、内面にわずかな 段をなしている。枝は浅くゆるい。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外周、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナタ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色 (5 P B 5) 胎土：やや粗。1mm程度の白色砂 粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	7	口径 15.8 残存高 2.9 縦径 16.0	口縁部は、やや内凹気味に直下し、端部は丸 く、枝は焼化し、根柢のみをとどめている。 天井部は低く、水平に近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外周、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナタ調整。	色調：内、外、断面 青灰色 (5 B B 5) 胎土：やや粗。1mm程度の白色砂 粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	8	口径 14.2 残存高 3.6 縦径 14.0	口縁部は、やや内凹気味に直下し、端部付近で 少し外反している。端部は内傾する凹面をなし ていて。枝は浅く粗い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外周、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナタ調整。	色調：内、外、断面 黄褐色 (Hu e N 5) 胎土：やや粗。0.1~0.3mm程度の 白色及び黒色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	9	口径 15.6 残存高 3.6 縦径 15.0	口縁部は、内凹気味にかづしながら下り、端 部はやや丸く、内側する凹面をわずかにして いる。枝は低く、浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナタ調整。	色調：内、外、断面 黄褐色 (5 Y 1 R) 胎土：やや粗。0.1~0.3mm程度の 白色及び黒色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	10	口径 16.4 残存高 3.2 縦径 15.6	口縁部は、下外方にまっすぐ下り、端部付近で 少し外反している。端部はやや斜く、内面にゆ るい段をなしている。 枝は浅く、粗い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナタ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰色 (5 B G 5) 胎土：やや粗。3mm大の白色砂 粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	11	口径 14.0 高さ 3.7 縦径 13.0	口縁部は、内凹しながら下外方に下り、端部は 丸く、内面で一糸の沈線をめぐらせることによ り、段をなしている。 枝は焼化し、ゆるく深い。 天井部は低く、水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外周、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナタ調整。 (天井部内面中央部は不整方向に ナタ調整を施しており、同心円の タキナカがみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色 (5 B G 5) 胎土：無。白色粘土含む。 焼成：良好堅緻。残存%。

種類	神経 番号	法 直(cm)	形 線 の 特 殊	手 法 の 特 殊	備 考
選 択 一 式	12	口径 15.8 残存高 3.2 被膜 15.0	口縁部は、内凹しながら下り、端部付近で少し外反している。端部はやや丸い。内面にわずかに段をなしている。 被膜は退化し、ゆるく、浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。 外筋に若干、自然軸がかかっている。	色調：内、前面 青灰色（10B G 5%） 外面、暗青灰色（10 B G 5%） 胎土：白色。0.1mm以下の白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	13	口径 16.8 残存高 3.8 被膜 16.4	口縁部はわざかに下外方に開き気味にまっすぐ下り、端部は丸い。端部内面に凹線によって段を有している。 被膜は浅く、無い。 天井部は高く、カーブを量しながらのびている	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、前面 青灰色（5 P B 5%） 外面、暗青灰色（5 B 5%） 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	14	口径 14.2 残存高 3.3	口縁部は、内凹気味に下り、端部は丸く、内面にわずかに段を有している。被膜は退化して消失しているが、天井部との境にわずかに凹線を有している。 天井部は低く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。 (天井部内面中央部に不整方向のナガ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、前面 青灰色（5 P B 5%） 外面、青灰色（5 B 5%） 胎土：やや粗。1.1mm程度の白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	15	口径 16.8 残存高 3.6 被膜 16.4	口縁部は、内凹気味に下外方に下り、端部は内傾する凹面をなしている。被膜は退化し、被膜のみをとどめている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、前面 青灰色（3 R 5%） 外面 青灰色（5 B 5%） 胎土：やや粗。1.~2mm程度の白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	16	口径 16.6 残存高 4.2 被膜 16.0	口縁部は、内凹気味に下外方に下り、端部はやや深く、内面に深い沈線を一柔めぐらせている。 被膜は退化し、浅く、ゆるい。 天井部はやや低く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、前面 青灰色（5 P B 5%） 外面、暗青灰色（5 P B 5%） 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	17	口径 14.2 残存高 4.3 被膜 14.0	口縁部は、下外方に下り、端部付近でわずかに外側に内凹している。被膜は深く、内面にゆるい段を有している。 被膜は退化し、浅く、ゆるい。 天井部は低く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。 (天井部内面中央部に不整方向のナガ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、前面 黄色（N 5%） 胎土：やや粗。1.1mm程度の白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	18	口径 16.6 残存高 3.5 被膜 16.4	口縁部は、内凹気味に下外方に下り、端部はやや深く、内面に深い沈線を柔めぐらせている。 被膜は深く、浅い。 天井部は低く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、前面 黄オリーブ色（7.5 Y 5%） 胎土：やや粗。1.1mm程度の白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	19	口径 16.4 残存高 4.6 被膜 16.0	口縁部は、内凹気味に直下し、端部はやや浅いが内面に一柔めの沈線をめぐらしく。明顯な段を有している。 被膜はゆるく、浅い。 天井部はやや低く、カーブを呈している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。 (天井部外面上に整形部分を残している。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、前面 青灰色（10 B G 5%） 胎土：やや粗。1.~1.5mm程度の白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存率
同 上	20	口径 13.6 残存高 4.5 被膜 13.7	口縁部は、やや内凹気味に直下し、端部は丸く、内面にゆるやかな段をなしている。 被膜は退化し、やや被膜のみをとどめている。 天井部は低く、やや水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。 (天井部内面中央部に不整方向のナガ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、前面 暗青灰色（5 R 5%） 外、前面 暗青灰色（5 P B 5%） 胎土：やや粗。 燒成：良好堅緻。残存率
同 上	21	口径 17.2 残存高 3.6 被膜 16.2	口縁部は、内凹気味に下外方に下り、端部は丸い。 被膜は深く、短いが、明顯に残っている。 天井部は低く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。 (天井部内面中央部に不整方向のナガ調整がみられる。)	ロクロ回転、左方向。 色調：内、前面 青灰色（5 P B 5%） 外、前面 暗青灰色（5 P B 5%） 胎土：無。 燒成：良好堅緻。残存率
同 上	22	口径 16.2 残存高 3.6 被膜 15.6	口縁部は、やや内凹気味に下外方に下り、口縁部外面に刻み目がみられ、端部は丸く、内面に深い沈線を柔めぐらせて段をなしている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、外、前面 床色（5 Y 5%） 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：不良。残存率
同 上	23	口径 15.0 残存高 3.3 被膜 14.2	口縁部は、やや内凹気味に下外方に下り、端部はやや深く、内面に柔めぐらした平面部を有している。 被膜は深く、浅いが、明瞭である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、前面 明青灰色（10 B G 5%） 外、前面 暗青灰色（5 B 5%） 胎土：やや密。大型白色砂粒含む。 焼成：良好。堅緻。残存率

種類	種因 番号	法 量(cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
兼 杯 (茎)	24	口径 16.8 残存高 4.2 梗径 15.8	口縁部は、内寄気味に下り、端部は丸く、内面に一束の深い沈鉢をめぐらしている。 瓣は退化し、その痕跡のみをとどめているにすぎない。 天井部は低く、ゆるいカーブを呈しながらのびている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (天井部外側に、中央から放射状にのびる1本のヘラ跡がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色(7.5Y R 4/2) 外側 カーキ色(5P G 5/4) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	25	口径 16.4 残存高 4.3 梗径 15.6	口縁部は、わずかに内寄氣味に下外方に下り、瓣部は丸く、内面に一束の深い沈鉢をめぐらしている。 瓣は退化し、その痕跡のみをとどめている。 天井部は低く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (天井部内側中央部に不整方向のナガ溝壁がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色(5 P R 4/2) 外側 青灰色(5 P G 5/4) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	26	口径 15.0 残存高 3.8 梗径 14.8	口縁部は、やや内寄しながら下外方に下り、瓣部で内縮する凹面を有する。 瓣は退化し、浅く、ゆるい。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色(5 BG R 4/2) 外側 青灰色(5 B G 5/4) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	27	口径 16.0 残存高 4.1	口縁部は、内寄しながら、下外方に下り、端部は丸く、たまたま瓣内側に段を有している。 瓣は退化し、消失している。 天井部は低く、ゆるいカーブを呈している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (天井部内側中央部に同心円のタキ俄がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色(5 BG R 4/2) 外側 青灰色(5 B G 5/4) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	28	口径 15.8 残存高 4.6 梗径 15.4	口縁部は、内寄氣味に下外方に下り、端部はやや丸く、内面に一束の深い沈鉢をめぐらしている。 瓣は退化し、その痕跡のみをとどめている。 天井部は丸く、ゆるいカーブを呈しながらのび中央部には水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 緑灰色(N) 外側 緑青灰色(10 BG 5) 胎土：緻密。0.1mm程度の白い砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	29	口径 15.0 残存高 3.9 梗径 14.6	口縁部は、いったら内寄してから、外反して瓣部に至っている。瓣部では、内縮する凹面を有している。 瓣は短く、浅いが、明瞭である。 天井部は低く、水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 緑灰色(N) 外側 オリーブグリーン(7.5 Y 4/2) 胎土：緻密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	30	口径 16.4 残存高 4.2 梗径 15.8	口縁部は、少し外反氣味に下外方に下り、端部はやや丸い。 瓣は退化し、わずかにその痕跡のみをとどめているにすぎない。 天井部は、やや高く、カーブを呈している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 緑青灰色 (5 P 5/4) 胎土：やや密。1mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	31	口径 18.0 残存高 3.9 梗径 16.4	口縁部は、内寄氣味に下外方に下り、端部は丸く、内面に深い沈鉢をめぐらしている。 瓣は退化し、浅く短く、下に一束の沈鉢をめぐらしている。 天井部は、やや低く、水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 黄緑色(N) 胎土：やや粗。天井部下面に4 mm程度の白色及び薄い綠色砂粒を多數含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	32	口径 15.0 残存高 4.1 梗径 14.2	口縁部は、少し内寄氣味に下外方に下り、瓣部付近でやや外反する。瓣部はやや丸く、内面にゆるい段を有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 緑青灰色 (5 R 5/4) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
兼 杯 (身)	33	口径 13.4 残存高 3.0 たちあがり 高 1.3 受部径 16.2	たちあがりは、外反をくり返して瓣部に至る。瓣部は、やや丸い。 受部はほぼ水平で短く、瓣部は丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色(5 P 5/4) 外側 緑赤灰色(5 R 5/4) 胎土：やや密。2mm大の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	34	口径 10.4 残存高 3.0 たちあがり 高 1.2 受部径 16.2	たちあがりは、短く、外反気味に内傾してのびている。瓣部はやや丸味を帯び、内側に段を有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 瓣部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (内、外側とも全体に薄い自然釉がかかる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 茶灰褐色(5 R 5/4) 外側 緑赤灰色(5 R 5/4) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	35	口径 12.8 残存高 4.7 たちあがり 高 1.6 受部径 15.0	たちあがりは、いったん内傾してから直立している。瓣部はやや内縮したわずかな平面を有している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (底部外側に一部、緑色自然釉がかかる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 棕色(7.5 Y 5/4) 外側 緑赤灰色(5 R 5/4) 胎土：やや粗。2mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。

種類	牌回番号	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
重 秤 (一 身 型)	36	口径 14.0 残存高 3.6 たちあがり高 さ 1.5 受部径16.4	たちあがりは、少し外反気味に内傾してのび、端部はやや瘦い。 受部は近く、水平で、端部はやや親い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青緑色 (5 P B 5) 胎土：糠密。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	37	口径 11.2 残存高 3.1 たちあがり高 さ 1.5 受部径14.0	たちあがりは、いったん外反気味に内傾してからまっすぐのびている。端部は瘦い。 受部は近く水平で、端部は親く、断面三角形をなす。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、断面 淡黄色(5 Y 3) 外側 灰白色(7.5 Y 4) 胎土：糠密。0.1mm程度の白色反が銀色砂粒有り。 焼成：不良。残存%。
同 上	38	口径 12.4 残存高 3.5 たちあがり高 さ 1.5 受部径15.2	たちあがりは、外反気味に内傾してのび、端部はやや瘦い。 受部は近く、やや太い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、断面 青緑色(10 H G 3) 外側 明青灰色(5 B G 3) 胎土：糠密。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	39	口径 13.6 残存高 3.8 たちあがり高 さ 1.4 受部径16.6	たちあがりは、外反しながらのび、端部付近でやや内傾する。 たとえ端部は近く、やや上方へのび、その端部はやや瘦い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青緑色(5 P 11) 胎土：やや瘦い。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	40	口径 12.2 残存高 3.6 たちあがり高 さ 1.5 受部径14.6	たちあがりは、内傾してほさまっすぐのび、端部はやや瘦い。 受部は近く、水平で、その端部はやや瘦い。 底部は瘦い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外削り、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 灰色(5 N) 外側 灰色(5 N) 胎土：糠密。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	41	口径 11.8 残存高 3.6 たちあがり高 さ 1.6 受部径14.6	たちあがりは、わざかに外反しながら、内傾してのび、端部はやや丸い。 受部は近く、水平にのび、端部はやや瘦い。 底部は近く、やや丸味をもびでている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外削り、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 明青灰色(10 B G 3) 外側 青緑色(10 H G 3) 胎土：やや密。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	42	口径 14.0 残存高 3.6 たちあがり高 さ 1.2 受部径15.0	たちあがりは、少し外反気味に、内傾してのび 端部はやや丸い。 受部は、近く、太い。 底部は近く、水平であるが、中央が福満している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外削り、底部へカット調整。 他は回転ナガ調整。 (底部内面中央は不整平面にナガ調整を施してあり、同心円のタグ痕がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 底灰白(10 B 5) 胎土：やや粗。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	43	口径 10.8 残存高 3.5 たちあがり高 さ 1.2 受部径12.6	たちあがりは、内傾しながらまっすぐのびたあと、端部付近でやや外だす。端部はやや親く、内面に一連の深い切れ目をめぐらせている。 受部は、近く太い。 底部は瘦い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、断面 明緑灰色(10 G Y 3) 外側 灰色(5 G 5) 胎土：やや密。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	44	口径 13.2 残存高 3.5 たちあがり高 さ 1.2 受部径14.4	たちあがりは、外反気味に内傾してのび、端部は瘦い。 受部は近く、水平にのび、その端部は親い。 底部は近く、水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外削り、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内面 青緑色(10 D G 5) 外側 灰色(10 H G 5) 胎土：やや粗。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	45	口径 12.0 残存高 3.5 たちあがり高 さ 1.2 受部径15.2	たちあがりは、外反気味に内傾してのび、端部は丸味をもびる。 受部は近く、上外方へのび、端部は瘦い。 底部は近く、外側は閉形を保有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外削りのくぼみは、底部外程度をヘラ削り調整後、中央部のみ、全面的にカットしている。 他の部分は回転ナガ調整。	色調：内、外、断面 青緑色 (10 B G 5) 胎土：やや粗。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	46	口径 11.7 残存高 3.5 たちあがり高 さ 1.5 受部径14.4	たちあがりは、やや外反したのち、内向する。 端部は、やや親い。 受部は近く、やや上外方によっすぐのび、端部は丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内面 オリーブ色(2.5 G Y 5) 断面 灰青灰色(10 B G 5) 外側 青緑色(10 H G 5) 胎土：やや粗。 焼成：良好堅致。白色砂粒含む。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	47	口径 13.2 残存高 2.8 たちあがり高 さ 1.3 受部径16.0	たちあがりは、外反してのび、端部付近で内傾する。端部はやや親く、内面にゆるい段を有する。 受部は近く、やや上外方にのびる。端部は丸い。 底部は瘦い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外削り、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 脣青灰色(5 P B 5) 外側 明青灰色(5 H G 3) 胎土：やや粗。 焼成：良好堅致。残存%。

種類	種別 番号	法量(cm)	形態の特徴	手術の特徴	備考
茎 杯 身	48	口径 14.0 残存高 4.3 たちあがり 高さ 1.4 受部径 16.8	たちあがりは、わずかに外反気味に内傾しての び、端部はやや丸く、内面にゆるい襞を有する 受部は短く、水平にのび、その端部はやや鋸 い。 底部は浅く、水平である。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (底部内面中央部は不整方向のナ ガ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰黒色(10 YR 6/1) 胎土：やや密。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	49	口径 12.0 残存高 4.1 たちあがり 高さ 1.3 受部径 14.2	たちあがりは、外反した後、内向してのび、端 部付近で、やや内側する。端部は薄く、丸味を おびている。 受部は短く、ほぼ水平にのび、その端部は丸い 部は、浅く、ほぼ水平である。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (底部内面中央部は不整方向のナ ガ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰黒色(5 B G 3/1) 外面 青灰黒色(5 B G 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	50	口径 14.0 残存高 3.9 たちあがり 高さ 1.4 受部径	たちあがりは、内傾気味にまっすぐのび、端部 付近で、少し外反している。端部は、やや丸い 受部は、短く丸い。 底部は浅く、ほぼ水平である。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 灰色(7.5 Y 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	51	口径 13.0 残存高 3.8 たちあがり 高さ 1.5 受部径 15.6	たちあがりは、少し外反したのも、内傾しての び、端部付近で、少し内側をむく。 端部は丸く、やや鋸い。 受部は短く、下がり気味にのび、その端部は、 やや鋸い。 底部は浅く、丸味をおびている。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰黒色(10 B G 5/1) 外面 青灰黒色(10 B G 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	52	口径 12.4 残存高 4.3 たちあがり 高さ 1.3 受部径 14.2	たちあがりは、やや外反気味に内傾してのび、 端部付近で、少し内側をむく。 端部は丸く、やや鋸い。 受部は短く、ほぼ水平にのびる。端部はやや 鋸い。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰黒色(5 B 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	53	口径 13.6 残存高 3.0 たちあがり 高さ 1.5 受部径 16.8	たちあがりは、少し外反したのも、内傾して、 まっすぐのびる。端部はやや鋸い。 受部は、短く、ほぼ水平にのび、断面二角形を 呈する。	マキアゲ。ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰黒色(5 B 5/1) 胎土：やや粗。1 mm程度の白色 砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	54	口径 12.6 残存高 4.1 たちあがり 高さ 1.5 受部形	たちあがりは、外反気味に内傾してのび、端部 付近で、内向する。端部は鋸い。 受部は、やや鋸く、水平にのび、その端部は鋸く、 断面三角形を呈する。 底部は、浅く、ほぼ水平である。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 明青灰黒色(5 B 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	55	口径 12.0 残存高 3.7 たちあがり 高さ 1.5 受部径 14.0	たちあがりは、いったん、やや外反気味に内傾 したあと、そのまままっすぐのびる。 端部は、やや鋸く。水平にのび、断面は三角形をめぐら せている。 受部は、短く水平にのび、その端部は丸い。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 明青灰黒色(10 B G 5/1) 外面 明青灰黒色(10 B G 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	56	口径 14.0 残存高 2.8 たちあがり 高さ 1.3 受部径 16.2	たちあがりは、少し外反した後、内傾してまっ すぐのびる。端部はやや鋸い。 受部は、短く、ほぼ水平にのび、その端部はや や鋸い。 その端部は丸味をおびる。 受部とたちあがりの接合点に状態を有する。	マキアゲ。ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 灰色(5 Y 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：不良。残存%。
同 上	57	口径 12.7 残存高 4.1 たちあがり 高さ 1.6 受部径 15.6	たちあがりは、外反してのび、端部付近で、少 し内傾する。端部はやや丸い。 受部は、短く、ほぼ水平にのび、その端部はや や鋸い。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰黒色(5 B 5/1) 胎土：やや粗。(3 mmの大の小石を 1つ含む) 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	58	口径 12.0 残存高 3.8 たちあがり 高さ 1.0 受部径 14.2	たちあがりは、やや短く、内傾してほまっ すぐのびる。端部付近で外反する。端部は、内傾す る平面をなし、内面には、凹線をめぐらせて、 段をなしている。 受部は、やや上方方にのび、その端部は丸味を おびる。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰黒色(5 B 5/1) 胎土：やや粗。白色砂粒含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	59	口径 13.2 残存高 3.8 たちあがり 高さ 1.1 受部径 16.2	たちあがりは、いったん外反気味に大きく内傾 してのびたあと、端部付近で内向する。端部は鋸 い。 受部は短く、やや上方方にまっすぐのび、その 端部は丸い。 底部は浅く水平である。	マキアゲ。ミズビキ成形。 底部外側弓、回転ヘラ削り調整。 他の回転ナガ調整。 (底部内面中央部に同心円のタタ キ模様がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰黒色(5 B 5/1) 胎土：やや密。3 mmの大の白石を 1つ含む。 焼成：良好堅緻。残存%。

種類	排卵 番号	法集(m)	形態の特徴	手法の特徴	備考
著 経 (身)	60	11径 14.0 残存高 3.8 たちあがり 高 1.5 受部径16.6	たちあがりは、内臓気味にまっすぐのびる。端部はやや鋸く、内面に段を有する。受部は近く、やや上方方にまっすぐのびる。底部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナガ調整。	色調：内、外、断面 青灰地（5 B 5%） 胎土：稍い。7mgの大石子を含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	61	口徑 12.1 残存高 3.1 たちあがり 高 1.5 受部径15.2	たちあがりは、やや深く、外反氣味に内傾してのびる。端部はやや鋸く。 受部は、やや上方方にまっすぐのび、その端部はやや鋸く。底部は斜面二角形を呈する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘタ削り調整。 (たちあがりと受部外面に自然輪が若干かかっている。)	色調：内、断面 青灰地（10 B G 5%）外向 青灰灰地（10 G 5%） 胎土：鐵。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	62	口徑 13.0 残存高 3.7 たちあがり 高 1.4 受部径16.0	たちあがりは、外反氣味に内傾してのび、端部はやや丸い。 受部は近く、水平にのび、その端部は鋸く、断面二角形を呈する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面、淡黄色（2.5 Y 10%） 胎土：やや粗い。白灰色砂粒を含む。 焼成：不良。残存率。
同 上	63	口徑 14.0 残存高 3.0 たちあがり 高 1.2 受部径16.8	たちあがりは、少し外反氣味に内傾してのび、端部はやや鋸く。 受部は、水平にのび、その端部はやや丸い。 底部は深く、ほぼ水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 淡黄色（5 Y 10%）外向 灰白色（5 Y 5%） 胎土：粗い。2mm程度の白色砂粒 を含む。 焼成：不良。残存率。
同 上	64	11径 13.4 残存高 3.0 たちあがり 高 1.4 受部径15.4	たちあがりは、やや外反氣味に内傾してのび、端部はやや鋸く。 受部は、かなり近く、太い。 底部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	色調：内、外、断面 青灰地（10 B G 5%） 胎土：やや粗い。1mm程度の白色砂 粒を含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	65	11径 14.0 残存高 3.3 たちあがり 高 1.2 受部径16.4	たちあがりは、外反した後、直立する。端部は鋸く。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰地（5 B G 5%） 胎土：やや粗い。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	66	11径 14.8 残存高 3.1 たちあがり 高 1.2 受部径17.6	たちあがりは、内側に内傾してのびた後、内側する。端部はやや丸い。 受部は、近く、ほぼ水平にのび、その端部は、やや鋸く。 たちあがりと受部との接合点に凹陥をめぐらせている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	色調：内、断面 オリーブ灰 (10 Y 5%) 外面 オリーブ 灰地 (10 Y 5%) 胎土：やや粗い。白色砂粒を含む。 焼成：不良。残存率。
同 上	67	口徑 14.6 残存高 3.9 たちあがり 高 1.4 受部径17.2	たちあがりは、やや外反したのち、内側して、端部はやや鋸く。 端部付近まで外反する。端部は、やや鋸く、内面にゆるい段を有する。 また、たちあがりと外側中央よりやや下に段を有している。受部は、近く、ほぼ水平である。 底部は、深く、水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側等、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰地（5 B 5%） 胎土：やや粗い。0.5mm程度の白 色及び黒色砂粒を含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	68	口徑 14.4 残存高 4.1 たちあがり 高 1.6 受部径16.8	たちあがりは、外反しながらのが、端部でやや内傾する。 受部は、近く、ほぼ水平で、その端部はやや丸い。 またたちあがりと受部との接合点に凹陥をめぐらせる。 底部は、やや深く、丸味をおびている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側等、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 明赤灰地 (5 Y 5%) 外面 明赤灰地 (5 Y 5%) 胎土：やや粗い。白色砂粒を含む。 焼成：不良。残存率。
同 上	69	口徑 14.2 残存高 4.7 たちあがり 高 1.3 受部径17.0	たちあがりは、いったん外反しながらのがた後、内側して端部に至る。 端部は、やや鋸く、内側に、内面に一条の沈縫をめぐらせていている。 受部は、近く、その端部は丸い。 底部は、やや深く、丸味をおびている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。 (底部外側及び受部は粘土テグスが付着したうえ、自然輪がかかっており、調整部位は不順。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面、底ナリーブ色 (5 Y 5%) 外面 増ナリーブ 色 (7.5 Y 5%) 胎土：やや粗い。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	70	11径 14.4 残存高 5.1 たちあがり 高 1.5 受部径17.2	たちあがりは、いったん内側気味にのびた後、さらに内側して端部に至る。 端部は丸い。 受部は、近く、水平にのび、その端部はやや鋸く。 底部は、やや深く、丸味をおびている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側等、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。 (底部分内中央部に不整方向のナック調整を施した後の同心円のナック痕がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面、灰 (N 5%) 外面 灰色 (N 5%) 胎土：やや粗い。白色砂粒含む。 焼成：良好堅硬。残存率。
同 上	71	口徑 16.2 残存高 3.7 たちあがり 高 1.4 受部径17.8	たちあがりは、いったん外反してのびた後、内側して端部に至る。 端部は鋸く。 受部は、やや上方方にまっすぐのび、その端部はやや丸い。 底部は、やや深く。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外側等、回転ヘタ削り調整。 他は回転ナガ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、外、断面 青灰地 (B 5%) 胎土：やや粗い。0.1mm程度の白色 砂粒含む。 焼成：良好堅硬。残存率。

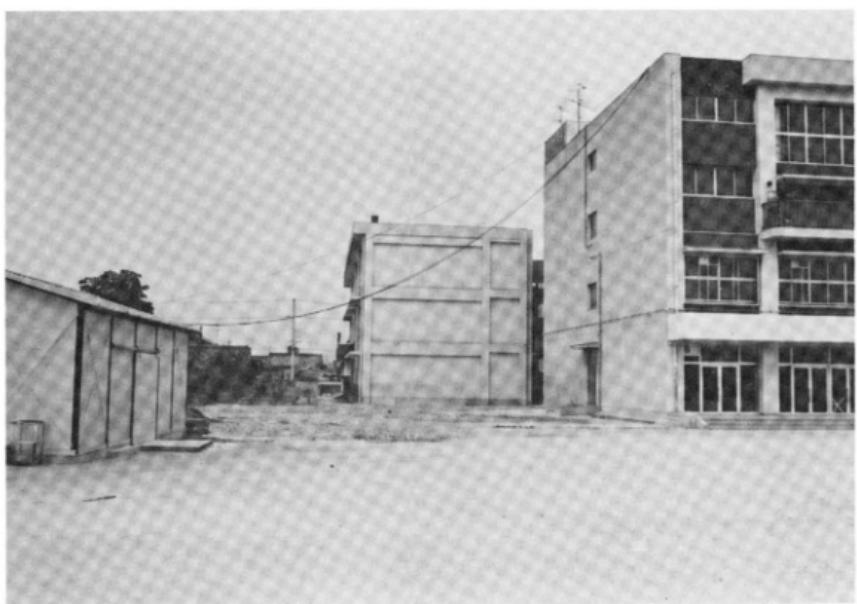
種類	辨認番号	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
董 杯 (身)	72	口径 15.4 残存高 4.0 たちあがり高 1.4 受部径 18.2	たちあがりは、いったん外反気味にのびた後、内側して端部に單孔。端部は、やや鋸く。 受部は、近く、やや上方にまっすぐのび、その端部は鋸く。断面二角形を呈する。 底部は、やや深く、水平である。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外周部、回転ヘラ削り調整。 (底部内面中央部に不整方向のナダ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 青灰色 (5 PB 5%) 外面 青灰色 (10 B G 5%) 粘土：やや細い。白色砂較軟化。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	73	口径 16.0 残存高 4.6 たちあがり高 1.3 受部径 18.6	たちあがりは、外反気味に少しのびた後、内側する。端部は、やや丸く、内面に凸滙状のふくらみを有し、段を作用している。 受部は、近く、段を有し、ほぼ水平にのび、その端部は、やや鋸く。断面二角形を呈する。 底部は、やや深く、丸味を有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外周部、回転ヘラ削り調整。 (底部内面中央部に不整方向のナダ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 オリーブ灰色 (2.5G Y 5%) 外面 从白色 (2.5G Y 5%) 粘土：やや細。白色砂較軟化。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	74	口径 15.0 残存高 4.5 たちあがり高 1.6 受部径 18.0	たちあがりは、外反気味にのびた後、端部付近で、内側してのびた後、端部付近で麻立する。 端部は、近く、やや上方にまっすぐのび、その端部は、やや鋸く。 受部は、やや深く、断面二角形を呈する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外周部、回転ヘラ削り調整。 (底部内面中央部に同心円のナダ調整がみられる。)	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 灰色 (N 5%) 粘土：やや粗。0.1mm程度の白色砂粒を有する。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	75	口径 17.0 残存高 4.5 たちあがり高 1.9 受部径 20.0	たちあがりは、やや長く、外反気味に大きく内側してのびた後、端部付近で麻立する。 端部は、やや丸く、内面にゆるい段を有する。 受部は、近く、ほぼ水平にのび、その端部は鋸く。断面二角形を呈する。 底部は、やや浅く。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	ロクロ回転、右方向。 色調：内、断面 灰色 (5 Y 5%) 粘土：やや粗。白色、及び黑色砂粒を含む。 焼成：良好堅致。残存%。
高 杯 (肩部 一部)	76	残存高 5.5	肩部、基部、及び脚底部欠損。 脚部は外反して、下外方に下る。 3方向にスカシを有するが、その形は不明。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (外間に粒状に自然釉がかかる。)	色調：内、外、断面 灰色 (N 5%) 粘土：やや粗。1mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅致。残存%。
同 上	77	残存高 4.7 基部径 4.8	肩部及び脚底部欠損。 脚部は、やや外反気味に下外方へ下る。 基部は、やや厚い。 2方向にスカシを有するが、その形は不明。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (脚部は、ハリツケによる。)	ロクロ回転。右方向。 色調：内、断面 黄白色 (5 Y 5%) 外面 明赤灰色 (5 R 5%) 粘土：やや粗。白色砂粒を含む。 焼成：不良。残存%。
同 上	78	残存高 5.3 基部径 5.5	肩部及び脚底部欠損。 脚部は、いったん内側気味に段を有しながら下った後、内側をめぐらせてから下外方へ外傾してのびてている。 4方向にスカシを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (外間に粒状に自然釉がかかる。)	色調：内、外、断面 黄白色 (5 B 5%) 粘土：やや粗。 焼成：良好堅致。残存%。
高 杯 (窓の アーチ)	79	残存高 1.3 最大径 3.0 最小径 2.3	つまは水平で、いったんくぼんでから、中央で、やや内傾となっている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (外間に、わずかに緑色自然釉がかかる。)	色調：内、外、断面 黄白色 (5 Y 5%) 粘土：やや粗。 焼成：良好堅致。
通 (口縁部)	80	口径 13.6 残存高 2.5	端部は、やや丸く、内側する箇所を有している。 口縁部は、内側気味に内傾して下った後、回転を有している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (口縁部外周に文様がみられる。)	色調：内、外、断面 青灰色 (10 B G 5%) 粘土：やや粗。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅致。残存%。
短 強 盃	81	口径 9.2 残存高 3.3	口縁部は、内側気味にのび、肩部は、やや丸く内側に、ゆるい段を有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (肩部上邊に重ね焼きの痕跡がみられる。) (肩部上面に粒状に自然釉がかかる。)	色調：内、外、断面 黄色 (N 5%) 粘土：やや粗。0.1mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅致。
短 盃 (把手)	82			マキアゲ、ミズビキ成形。 把手はハリツケによる。 脚部外周はカリキ調整を施しておあり、口縁部付近では、その上に回転ナダ調整がみられる。 内面は回転ナダ調整。	色調：内、外、断面 青灰色 (5 B 5%) 粘土：柄粗。 焼成：良好堅致。
甕	83	口径 13.6 残存高 5.6 基部径 13.4	口縁部は「く」の字形に外反してのび、端部はやや外方へせり出し、把手をしている。 唇部は厚い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。 (肩部内面に青海波タタキ模がみられる。)	色調：内、断面 オリーブ灰色 (2.5G Y 5%) 外面 黄色 (N 5%) 粘土：やや粗。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅致。残存%。

種類	検査番号	法 畳 (cm)	形 總 の 特 殊	手 法 の 特 殊	備 考
異常	84	口径 19.2 残存高 5.9 基部径16.4	口頭部は、外反氣味に上外方へのび、端部はやや外へせり出し、先端をむけている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 端部外側に平行タキを施したあと、カムナガ調整。 (肩部内側に青海波タキ痕がみられる。)	色調：内、断面 灰色（5 YR） 外側 从白色（N5） 胎土：やや密。1mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	85	口径 22.0 残存高 6.5 基部径17.0	口頭部は、外反氣味に上外方へのび、一条の凹縫を有したあと、外方へせりだし、端部は肥厚している。端部裏面、四角形を有する。 肩部は、なだらかに下降している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 端部外側、カムナガ調整。 (肩部内側に青海波タキ痕がみられる。)	色調：内、断面 灰色（5 P B 5 N） 胎土：やや密。0.1mm程度の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	86	口径 24.2 残存高 6.6 基部径20.8	口頭部は、わざかに外反氣味に上外方へのび、端部で、やや肥厚している。端部は丸い。 肩部は、口頭部に対して、ほぼ直進に下外方にのびていて。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。 (肩部内側に青海波タキ痕がみられる。) (外表面が全面に、内側は柱状に自然移がかかる。)	色調：内、断面 灰色（10 YR 5 G） 外側 灰色（7.5 Y 5 G） 胎土：やや粗。1~2mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	87	口径 19.8 残存高 7.0 基部径15.4	口頭部は、外反氣味に上外方へのびている。 肩部は、外側に一条の凹縫を有し、やや丸い。 また、内傾する平面をなしている。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、断面 灰色（N 6） 外側 灰色（N 6） 胎土：粗糲。 焼成：良好堅緻。残存%。
異常	88	口径 19.4 残存高 4.6	口頭部は、外反氣味に上外方へのび、端部で、やや肥厚している。端部は丸く、断面は長円形を呈する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、断面 黄色（2.5 Y 5 G） 外側 从白色（7.5 Y 5 G） 胎土：やや粗い。3mmの大い小石を含む。 焼成：不良。残存%。
同 上	89	口径 21.0 残存高 3.4	口頭部は、外反氣味に上外方へのび、端部で、やや肥厚している。端部外側は、わざかに外反氣味で、端部は、やや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。 口頭部はハリナガによる。	色調：内、外、断面 灰色（N 6） 胎土：粗糲。0.1mm程度の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	90	口径 24.6 残存高 3.1	口頭部は、外反氣味に上外方へのび、端部で、下外方にややせり出し、端部外側に一条の凹縫をめぐらせており、端部は、やや丸く、内傾する平面を有している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。	色調：内、外、断面 灰白色（7.5 Y 5 G） 胎土：やや粗い。1mm前後の白色及黒色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	91	口径 25.6 残存高 4.8	口頭部は、わざかに外反氣味に上外方へのび、端部で丸く肥厚している。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。 (内、外側に全体的に緑色自然釉がかかる。)	色調：内、断面 灰色（7.5 Y 5 G） 外側 从白色（N 6） 胎土：やや粗。1mm程度の白色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。残存%。
同 上	92	口径 不明	口頭部は、わざかに外反氣味にのび、端部で、下側にせり出して肥厚している。端部外側は、カーブを呈しながら、2条の凹縫を有し、端部は、やや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナガ調整。 (口頭部外側に、ヘラのようなもので分けたと思われる右ナメと左ナメの方向の平行の文様がみられる。)	色調：内、断面 从白色（7.5 Y 5 G）外側 灰色（7.5 Y 5 G） 胎土：やや密。白色砂粒を含む。 焼成：良好堅緻。

図 版



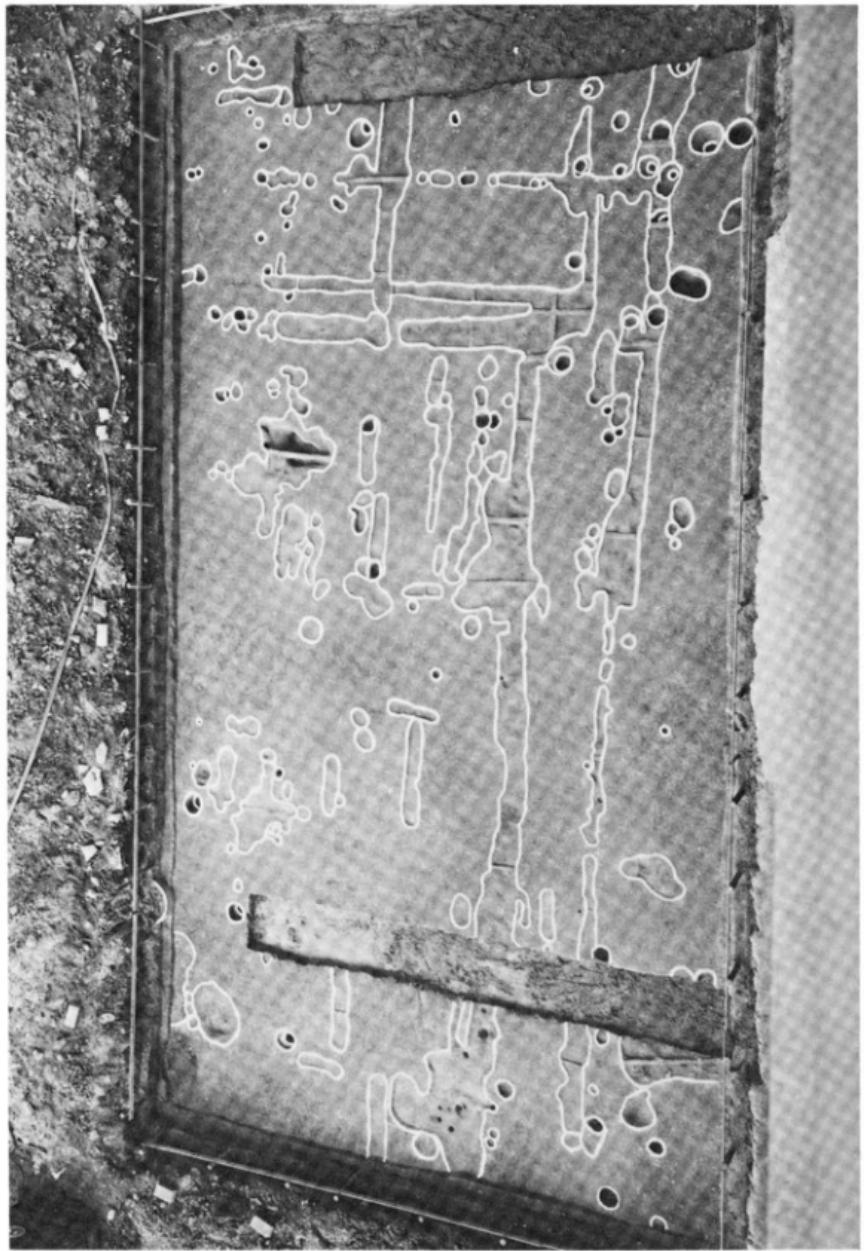
三宅遺跡航空写真



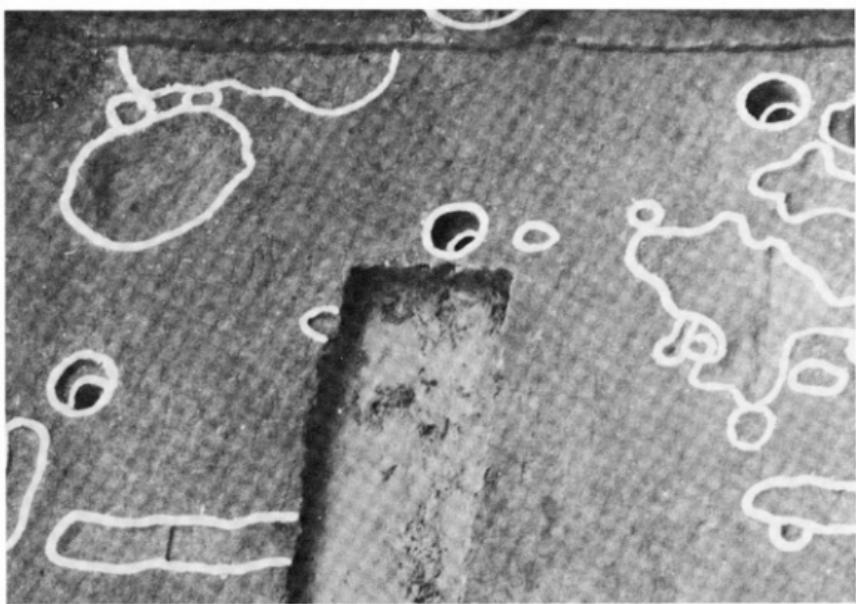
調査地点近景（南より）



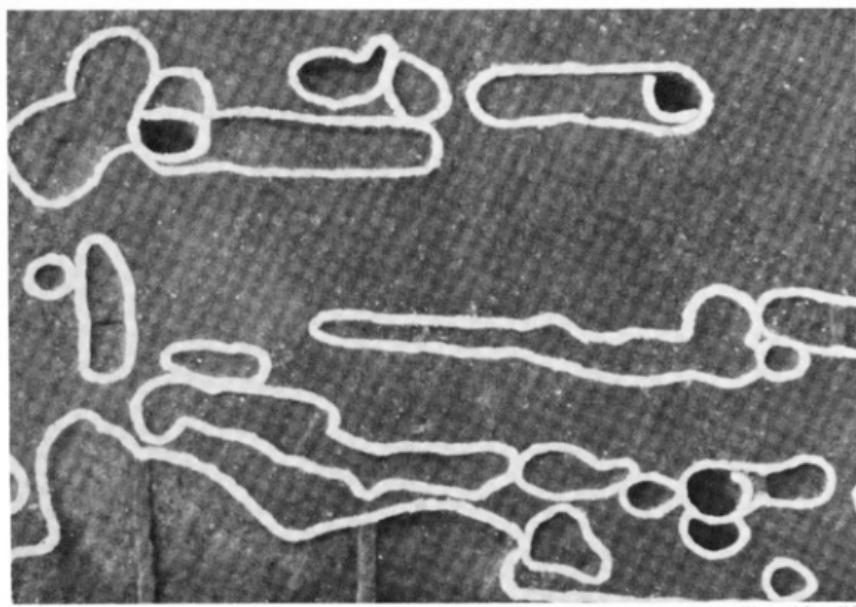
調査風景



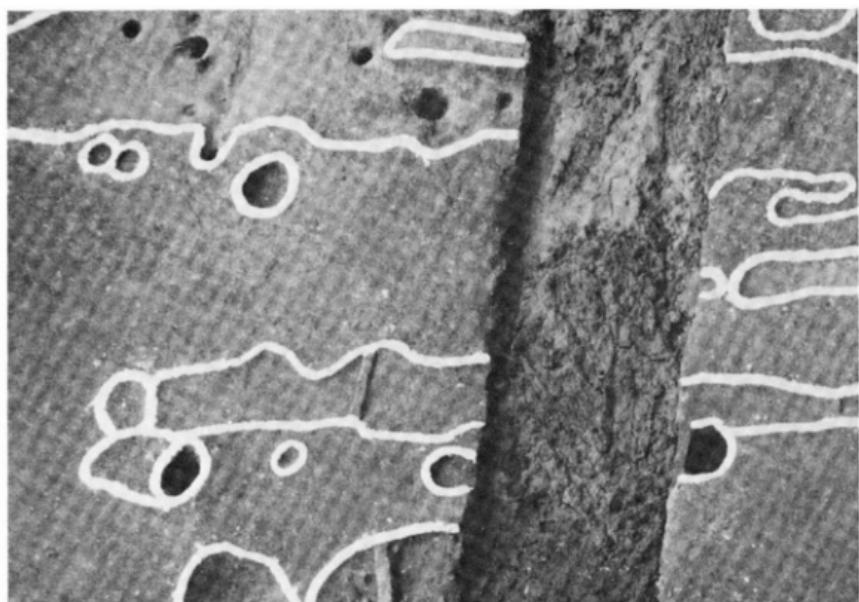
遺構全景（東より）



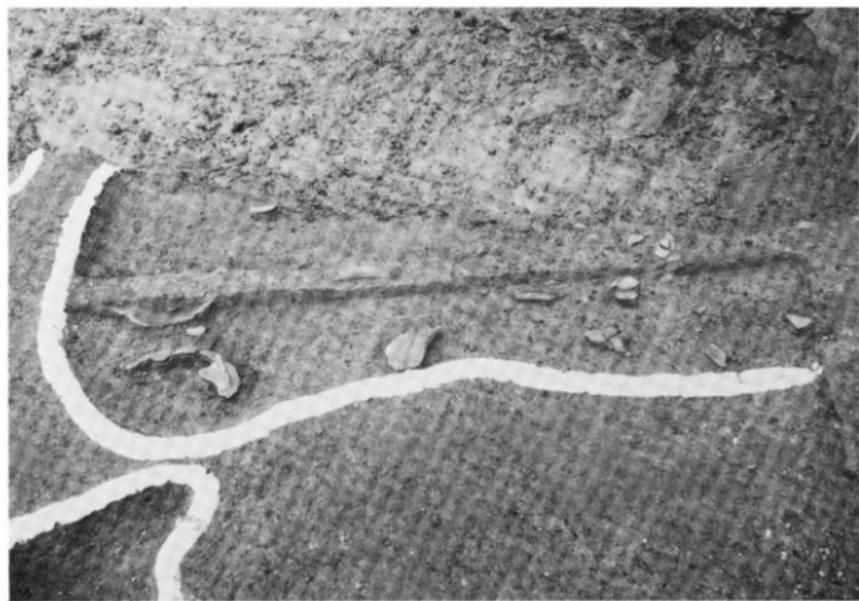
掘立柱建物1（東より）



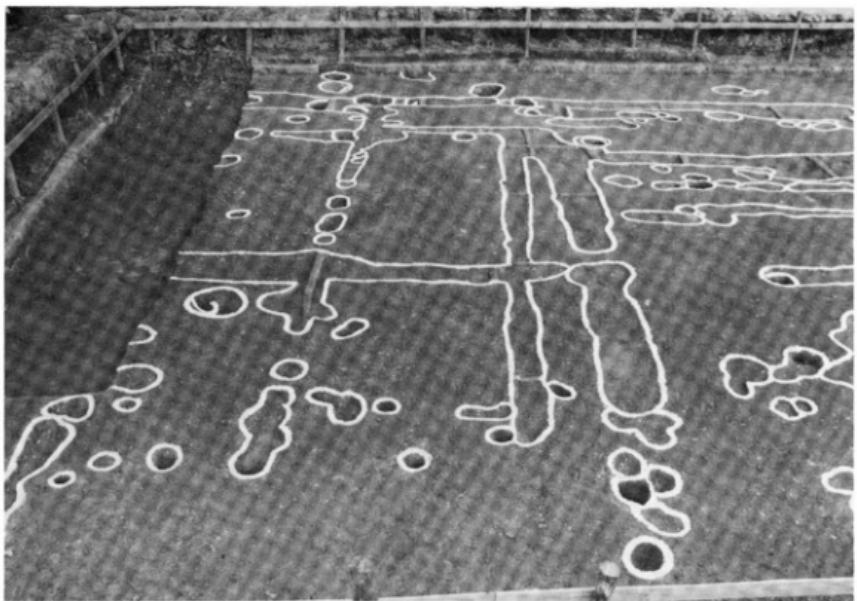
掘立柱建物2（東より）



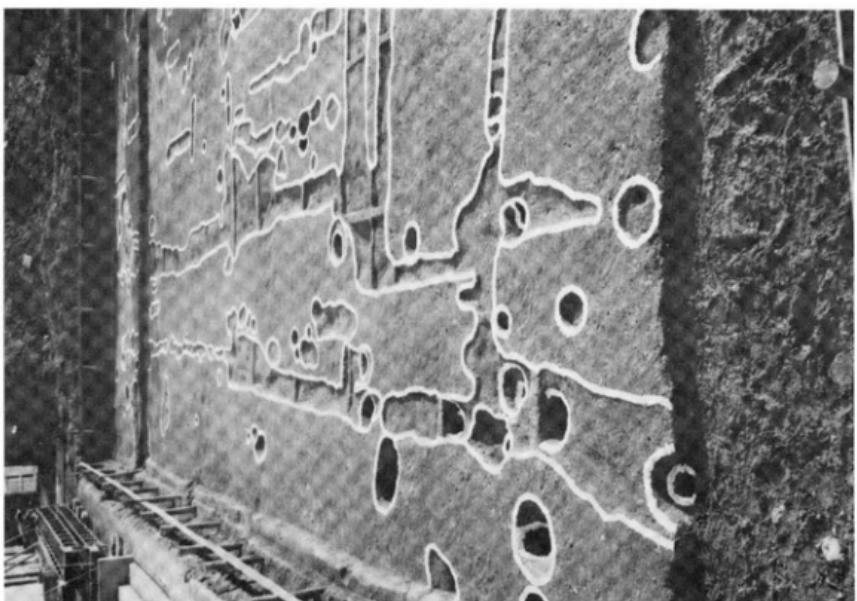
掘立柱建物 3 (東より)



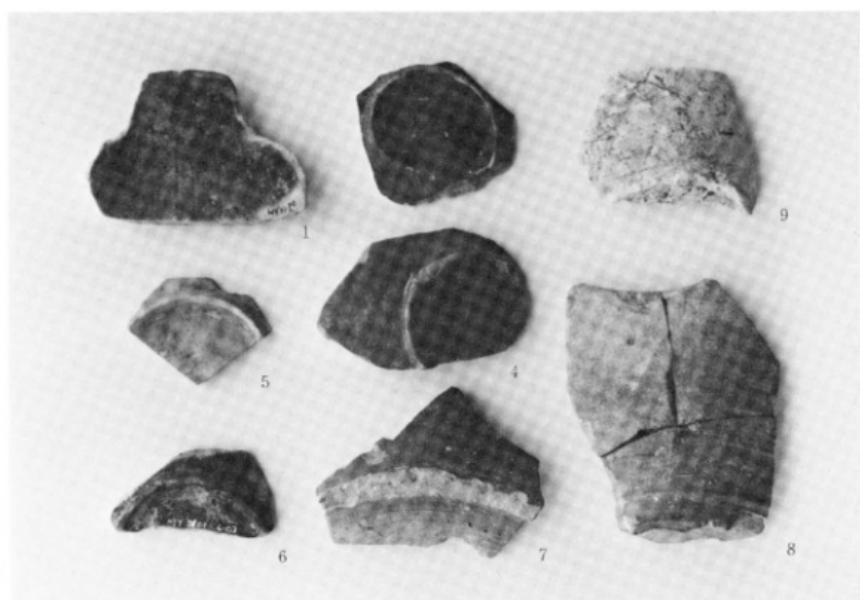
土壤 1 (南より)



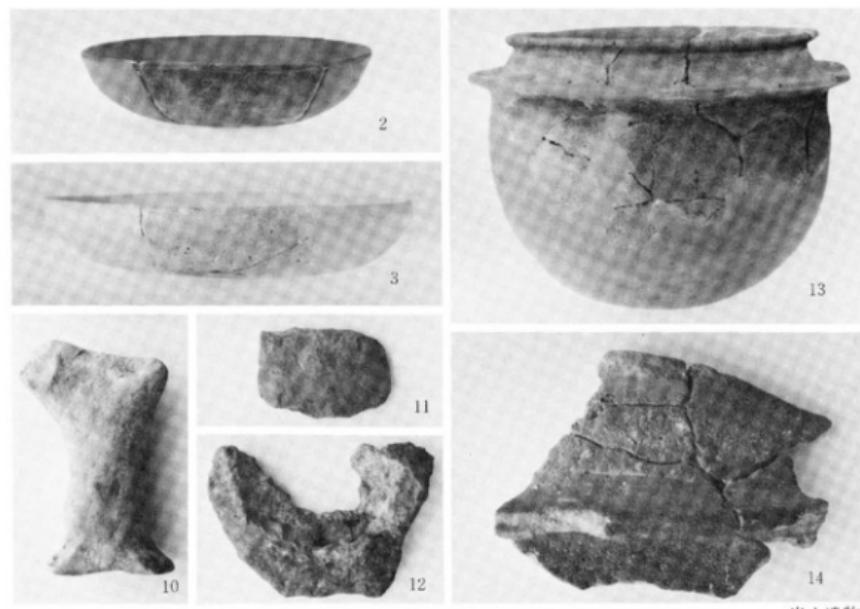
溝（西より）



溝（北より）



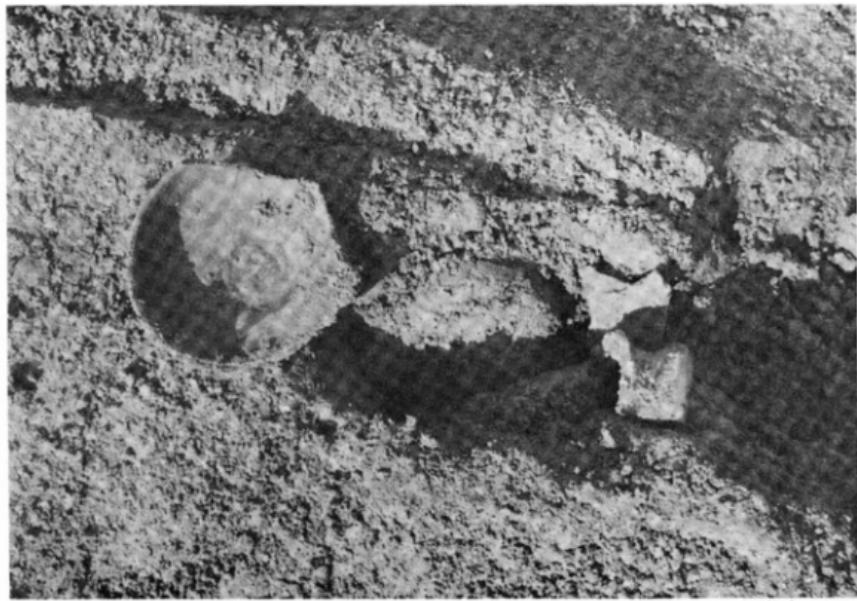
出土遺物



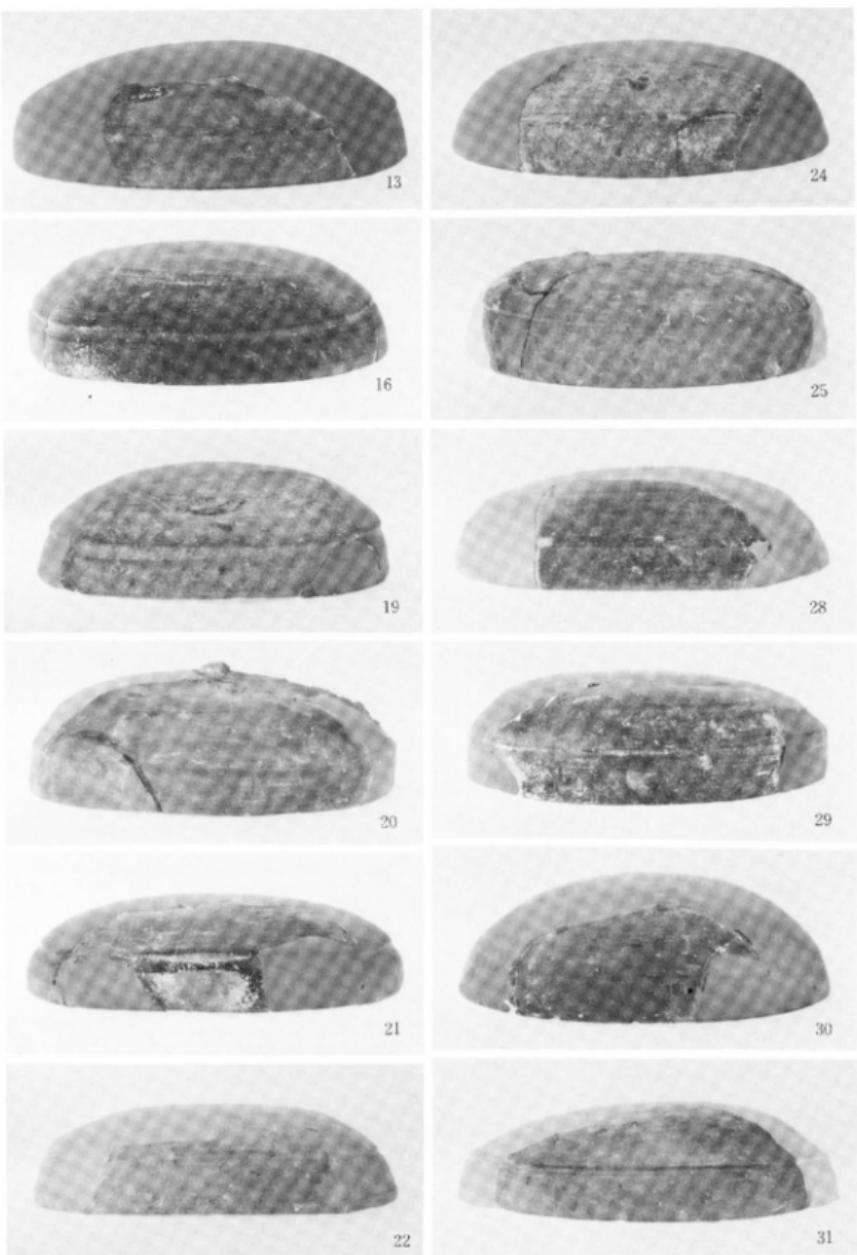
出土遺物



樋野ヶ池窯跡景観（南西より）



遺物出土状態

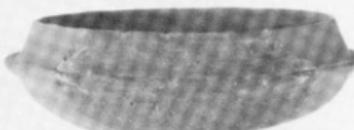




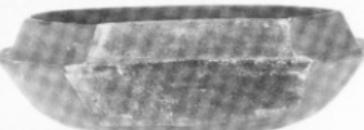
35



54



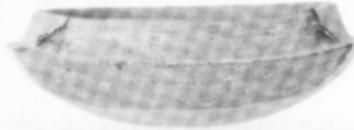
41



55



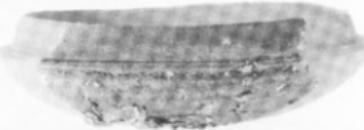
42



62



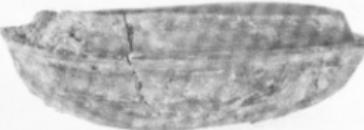
48



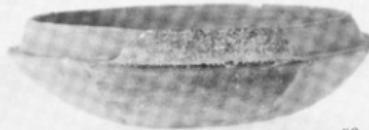
69



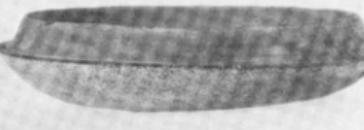
50



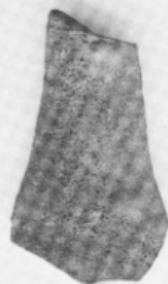
70



52



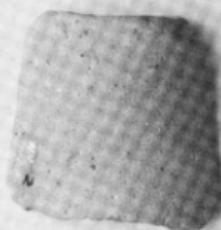
72



76



82



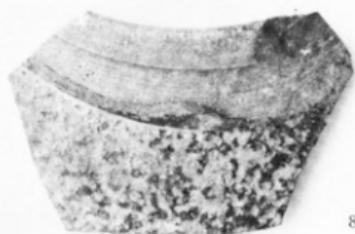
77



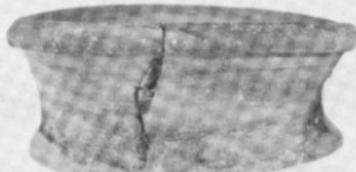
80



78



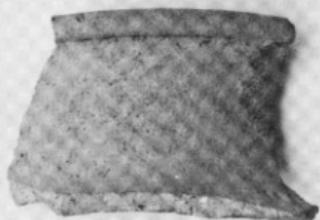
81



83



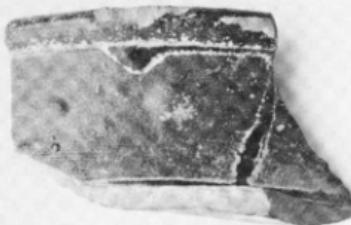
85



84



89



86



90



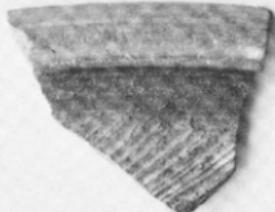
87



91



88



92



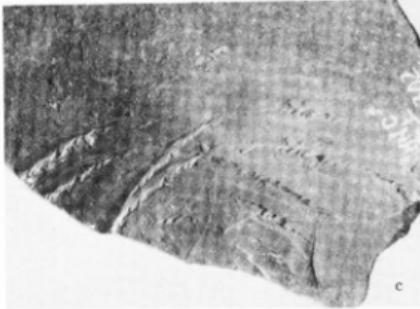
79



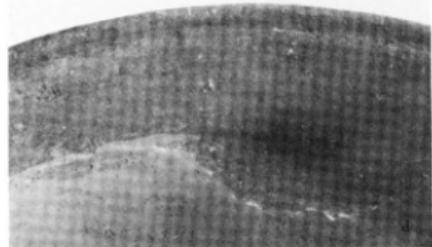
a



b



c



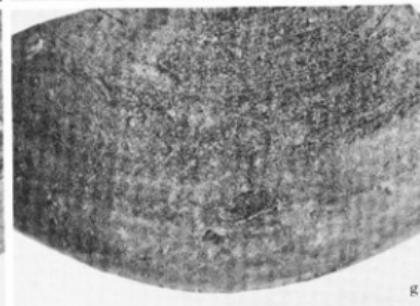
d



e



f



g

a・ヘラ削り b・c・杯蓋内面同心円文 d・杯蓋口縁部内面沈線
e・杯蓋口縁部外面刻み目 f・g・杯蓋棱

三宅遺跡

編集 松原市教育委員会 社会教育課
〒580 松原市阿保1丁目1番1号
電話 (0723) 34-1550
発行 松原市教育委員会
印刷 株式会社 中島弘文堂

